みんなで前を向く。
みんなで前へ行く。

大分、一丸。

ゴールは、ひとりひとりにある。

Since 1981
Oita International Wheelchair Marathon

第40回記念 大分国際車いすマラソン

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

2021 11.21 (sun)
10:00 START

MEMORIAL BOOK 大会記念誌

40

The 40th ANNIVERSARY

OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

第40回記念 大分国際車いすマラソン

大会記念誌

大会会長あいさつ

1981年の国際障害者年を契機として、故中村裕博士の提唱により世界初の車いす単独のマラソン大会として始まった「大分国際車いすマラソン」は、去る令和3年11月21日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のオンラインでのご臨席を賜り、第40回記念大会を開催することができました。

新型コロナウイルス感染症の影響で海外選手の入国は限定的でしたが、実効性のある感染対策を徹底するなど、多くの関係者が一丸となって準備に奔走し、東京2020パラリンピック競技大会以降初の国際パラスポーツ大会としての舞台を整えました。

迎えたレース当日は、快晴・微風と絶好のコンディションとなり、海外3か国から招待選手4名、国内26都府県から127名、合計131名の車いすアスリートが参加し、新しく生まれ変わった大分市街地コースを駆け抜けました。

マラソン男子、最速クラスのT34/53/54では、マルセル・フグ選手が鈴木朋樹選手との一騎打ちを制し、ハインツ・フライ選手が持っていた第19回大会の世界記録を実に22年ぶりに更新する世界新記録で通算9度目、大会3連覇を果たしました。また、T33/52クラスでは佐藤友祈選手が3度目の優勝、T51クラスではピーター・ドゥ・プレア選手が大会5連覇を飾りました。

マラソン女子T34/53/54クラスでは、喜納翼選手がタチアナ・マクファーデン選手を抑え3度目の優勝を成し遂げるなど、節目の大会にふさわしい熱戦が各クラスで展開されました。

2年ぶりの国際レース、そして新コースとなった今大会を成功裏に終えられましたことは、ひとえに多くの企業や団体、医療関係者、ボランティア等の皆さまによる一方ならぬご協力とご支援の賜物です。コロナ禍にありながらも、スポーツのもたらす明るい希望を、この大分の地から世界中に力強く発信できたことは誠に意義深く、心から感謝とお礼を申し上げます。

改めて、この大会が40年の長きにわたり積み重ねてきた感動の歴史の重みを糧として、障がいの有無や国籍、文化の違いを越え、すべての人々が心豊かに暮らすことができる共生社会の実現に邁進する決意を新たにし、発刊のあいさつとします。

第40回記念 大分国際車いすマラソン 大会会長
大分県知事 **広瀬 勝貞**
HIROSE KATSUSADA

Message from the President

The Oita International Wheelchair Marathon, started in commemoration of the International Year of Disabled Persons in 1981 as the world's first marathon event solely for wheelchair racers, was successfully held with the online presence of Their Imperial Highnesses Crown Prince and Crown Princess Akishino on November 21st, 2021 as its 40th anniversary event.

Due to Covid-19 restrictions, entry into Japan by international athletes was limited, but the many people involved worked together to make every effort toward putting effective anti-infection measures in place in preparation for holding the first international parasports event after the Tokyo 2020 Paralympics. Race day arrived with the optimal conditions of clear skies and light wind, and a total of 131 athletes, including four athletes invited from three foreign countries and 127 athletes from 26 prefectures in Japan, raced the newly modified course through the streets of Oita City.

In the men's marathon division, the fastest class, T34/53/54, was won by Marcel Hug, who beat Suzuki Tomoki in a one-one-one battle, taking his third consecutive and ninth total victory with a new world record, topping the record which had been set by Heinz Frei 22 years ago at the 19th Oita race. In the T33/52 class, Sato Tomoki won for the third time, and in the T51 class, Pieter du Preez took his fifth consecutive victory. With Kina Tsubasa holding off Tatyana McFadden to win the T34/53/54 class of the women's marathon division for the third time, an exciting battle was fought in all the classes at this milestone event.

Being able to successfully conclude this international event held after an interval of two years was entirely thanks to the cooperation and support by our many sponsoring enterprises and organizations, medical personnel, and volunteers. Amidst the coronavirus crisis, it was deeply meaningful that we were able to send out a strong message from Oita to the world conveying the bright hope brought about by sports, and I offer my heartfelt gratitude and appreciation.

Once again, with the accumulation of this event's 40 years of impressive history serving as nourishment, I renew my determination to push forward efforts to realize an inclusive society in which all people, beyond disability, nationality, and cultural differences, can live enriched lives.

Katsusada Hirose

Governor, Oita Prefecture
President, 40th Anniversary Oita International Wheelchair Marathon

優勝の瞬間

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

マラソン男子 T34/53/54 優勝

マルセル・フグ

1° 17′ 47″（世界新記録）　スイス　MARCEL HUG / SWITZERLAND

2年ぶりとなった国際レースで、3大会連続9度目の優勝。序盤からハイペースな展開で、終わってみると、ハインツ・フライがマークした従来の記録を2分27秒も上回る驚異的なレコードで勝利。

マラソン女子 T34/53/54 優勝

喜納　翼 きな つばさ

1° 40′ 13″　沖縄県　KINA TSUBASA / OKINAWA

25km付近で右手グローブが外れ、拾いに戻るという不測のアクシデントにも的確に対応し、通算3度目の優勝。長い腕を生かした小気味の良いフォームで、冷静に先頭を奪いゴール。記録的には70点と語るが、底知れない強さを感じた。

マラソン男子 T33/52 優勝

佐藤 友祈 さとう ともき

1° 50′ 19″　岡山県　SATO TOMOKI / OKAYAMA

東京パラリンピック陸上男子400m、1500mを制したスプリント力で、前回王者を振り切り、1年ぶりのマラソンを完走した。苦手な上り坂を苦しみながらの3度目の栄冠。パリパラリンピックのトラック連覇が次の大目標。

マラソン男子 T51 優勝

ピーター・ドゥ・プレア

2° 34′ 30″　南アフリカ　PIETER DU PREEZ / SOUTH AFRICA

3大会連続5度目の優勝。風に苦しみ、自らの持つ大会記録は更新できなかったが、コース変更で走りやすくなった反面、このクラスにとっては負担が大きいとコメント。自力の強さと家族の絆で勝ち取った。

ハーフマラソン男子 T34/53/54 優勝

生馬 知季 いこま ともき

0° 44′ 43″　岡山県　IKOMA TOMOKI / OKAYAMA

2位に2分29秒の差をつけて初の栄冠に輝いた。2018年に新人賞を獲得したニュースターが。得意の上り坂で力を見せつけての圧勝。早くも視線は来年の連覇を見据えていた。

ハーフマラソン女子 T34/53/54 優勝

安川 祐里香 やすかわ ゆりか

0° 58′ 22″　沖縄県　YASUKAWA YURIKA / OKINAWA

WPAドバイグランプリ大会、日本パラ陸上選手権大会など、近年力をつけてきた選手。記録には満足がいかなかったようだが、久しぶりの遠征で楽しみながら走れたとコメント。

ハーフマラソン男子 T33/52 優勝

伊藤 竜也 いとう たつや

0° 56′ 00″　福井県　ITO TATSUYA / FUKUI

競技年数2年で2018年のアジアパラ競技大会100mでアジア新記録を樹立した、スプリンター。道中は沿道の子どもたちに手を振る余裕を見せるなど、レースを楽しみながらも自己ベストを更新した。

ハーフマラソン女子 T33/52 優勝

木山 由加 きやま ゆか

1° 16′ 33″　岡山県　KIYAMA YUKA / OKAYAMA

スプリント、ハーフを中心に長く活躍を続けるアスリート。沿道からの声援を追い風に、今回も優勝を飾り、13連覇を達成。その走りは円熟期を迎え、これからの活躍も期待したい。

大会前・記念行事

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

10.27 (wed) ▶ 11.7 (sun) 10:00～19:00

大分車いすマラソン展「越境者たち」

OPAM 大分県立美術館

10.30 (sat) 12:00～16:00

パラスポーツ トークショー

OPAM 大分県立美術館

記念大会に先駆けて、陸上アスリートの中西麻耶さんとアイドルグループ「仮面女子」の猪狩ともかさんによるトークショーが行われた。日々の原動力や今後の目標などについて語り、海外での当大会の認知度の高さなどのお話も。

CYBER WHEEL X（VR車いすレーサー）体験

スペシャルトークショー

右から中西麻耶さん、猪狩ともかさん、甲斐蓉子アナウンサー（OBS）

中村英昭 陸上自衛隊別府駐屯地第41普通科連隊長と山田雅文 大会実行委員長（福祉保健部長）が出席し、それぞれ調印を行った。本部管理中隊を中心とした隊員86名が、選手の生活用・競技用車いすの運搬や報道機関の取材補助、選手の輸送補助などの力強いバックアップ体制に。

自衛隊支援協定書 調印式

車いす修理

11.20 (sat)
9:00～12:00

選手受付
大分県庁

コロナ禍ということもあり、安全な大会運営のために新型コロナウイルス検査や検温などの体調検査も行った。

11.20 (sat)
17:00～17:30

記者会見
お部屋ラボ 祝祭の広場

「お部屋ラボ 祝祭の広場」で、マルセル・フグ選手ら、有力選手の記者会見が行われた。車いすマラソンの聖地「OITA」に世界的なアスリートが集い、期待が高まる。

開会式

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

11.20 (sat) 16:00～16:45
開会式

お部屋ラボ 祝祭の広場

大会会長の広瀬知事、副会長の佐藤大分市長をはじめ、主催者・来賓の方を迎えながら、大分商業高校吹奏楽部のファンファーレで幕を開ける。
記念大会として功労者表彰も行われ、翌日のレースに向けたムードが高まってゆく。

選手宣誓 佐藤友祈選手

大分商業高等学校 吹奏楽部

40回連続出場選手の皆さん

40回永続功労者表彰受賞者の皆さん

大会会長あいさつ／大分県知事

広瀬 勝貞

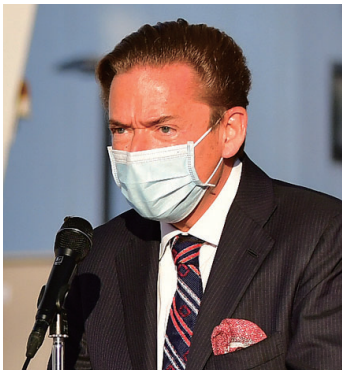
HIROSE KATSUSADA

地元市長あいさつ／大分市長

佐藤 樹一郎

SATO KIICHIRO

30回以上功労者表彰受賞者の皆さん



ごあいさつ／駐日スイス大使

アンドレアス・バオム

ANDREAS BAUM

30回以上出場選手の皆さん①

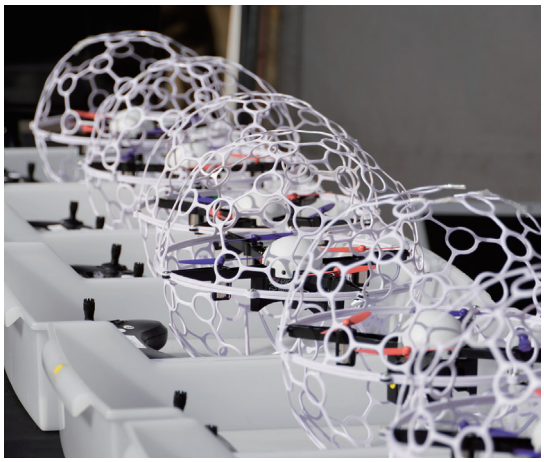
30回以上出場選手の皆さん②

開会式（イベントブース等）

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

大会は、本会場以外でパブリックビューイングでの観戦も可能に。ステージイベントに加え、レース仕様の車いすの展示、福祉車両展示、ドローンサッカー、スイス大使館、アルゲリッチ音楽祭などバラエティ溢れるブースで、来る人を楽しませた。

福祉車両コーナー（本田技研工業株式会社）



ドローンサッカーコーナー（株式会社エー・ディー・イー）

物販ブース（ファイテン株式会社）

レーサー展示（本田技研工業株式会社）

VR車いすレーサー体験コーナー（株式会社ワントゥーテン）

スイス大使館ブース

別府アルゲリッチ音楽祭ブース

共生社会ホストタウンブース

西日本電信電話株式会社ブース

ファースト・チャレンジ・アシスト 参加選手の皆さん

スタート直前

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

城址公園で出場選手が最後のセッティングとウォームアップを確認。緊張が高まる時間。陰で支えるボランティアスタッフ、自衛隊の協力で速やかにスタート前の準備は進む。

コロナ禍で沿道の応援が難しい学校や施設が作った応援のぼり。

スタート

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

11.21 (sun) 10:00
マラソンスタート
大分県庁前

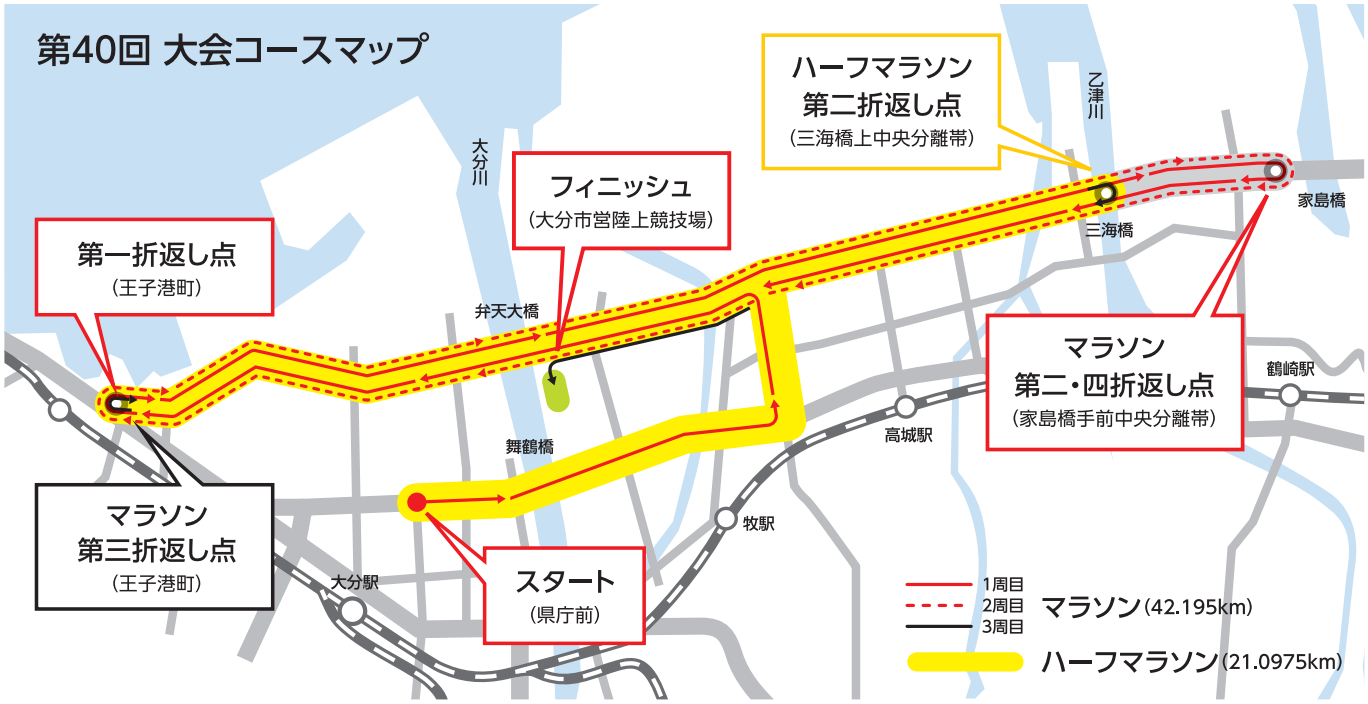
マラソン スターター
大会会長／大分県知事　広瀬 勝貞

号砲と共に、海外・国内の全選手131名がスタート。色とりどりのウェアで洗練されたレーサーに乗った選手たちが一斉に走り出す。

11.21 (sun) 10:03
ハーフマラソンスタート
大分県庁前

ハーフマラソンスターター
スポーツ庁長官　室伏 広治

コースが変更になった今大会は、ペースが速いスピーディーな展開。優勝したマルセル・フグ選手含め有力選手がマラソン先頭集団を引っ張る。序盤からレース後半のようなスピードと緊張感で、早くも記録への期待が高まる。


第40回 大会コースマップ
ハーフマラソン
第二折返し点
(三海橋上中央分離帯)
乙津川
大分川
フィニッシュ
(大分市営陸上競技場)
家島橋
三海橋
第一折返し点
(王子港町)
弁天大橋
マラソン
第二・四折返し点
(家島橋手前中央分離帯)
鶴崎駅
高城駅
舞鶴橋
マラソン
第三折返し点
(王子港町)
牧駅
大分駅
スタート
(県庁前)
1周目
2周目
3周目
マラソン(42.195km)
ハーフマラソン(21.0975km)

レース

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

レースは中盤から折り返し。それでもペースはたゆむことはない。新コース、絶好のコンディションで全選手が持てる力を存分に発揮し、白熱のレースが繰り広げられる。

348
321
10
151

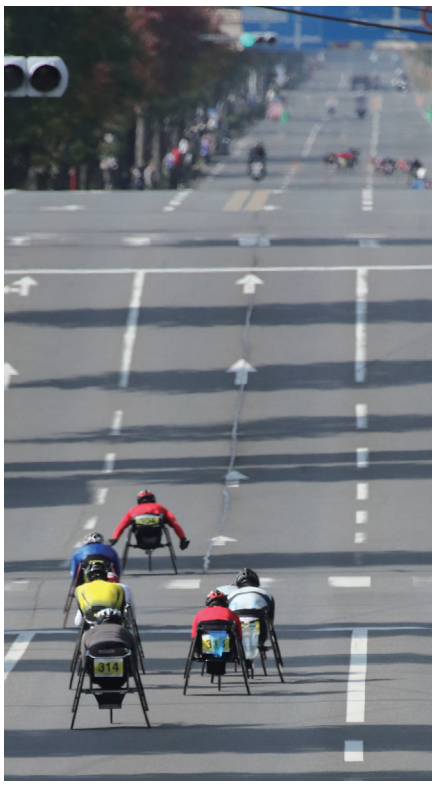
109
HONDA

398

5
4
6

レース

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON



マラソントップ争いは、終盤を迎えると王者マルセル選手のひとり旅に。コース各所で多くの笑顔と拍手が選手の背中を押す。沿道で応援ができる事がどれだけ幸せだったのかを改めて感じる。

トラック、そしてフィニッシュ

マラソントップは終わってみるとマルセル・フグ選手が世界新の圧勝劇。2位の鈴木朋樹選手も日本新など、記念大会らしい熱戦が各種目・各クラスで展開された。どの選手も走れた喜びが大きかったのか、表情は明るい。

322
324
341
320

大分国際
いすマラソン

377
HONDA

ANA
大分国際車いすマラソン
HONDA
大分国際車いすマラソン

競技場にて

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

2年ぶりの国際大会。荒天の中の晴れ間のような期間の開催だったが、大会を無事に開催できたことで、参加した選手たちの顔からは一様に笑みがこぼれた。安堵感、達成感、清々しさ。新型コロナウイルスの影響で予定の立たない状況下にあって、大分市営陸上競技場には、この日の天気のように、ちょっとだけ希望の光が顔を出した。

閉会式

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

閉会あいさつ／大会会長 大分県知事
広瀬 勝貞
HIROSE KATSUSADA

マラソン審判長
田崎 弘宣
TAZAKI HIRONORI

ハーフマラソン審判長
小俣 秀之
OMATA HIDEYUKI

閉会宣言／大会実行委員長
山田 雅文
YAMADA MASAFUMI

コロナ禍という特別な環境の中、ベストパフォーマンスを出すことの難しさは、どの選手も感じた事だろう。素晴らしい記録の出た大会だったが、目に見えない努力を多く払った運営、ボランティア、医療従事者、警察、自衛隊の方にとって、笑みを浮かべた選手の顔こそが、一番の成功だったのかもしれない。

マラソン男子
T34/53/54 優勝
マルセル・フグ
MARCEL HUG

マラソン女子
T34/53/54 優勝
喜納　翼
KINA TSUBASA

マラソン男子
T33/52 優勝
佐藤 友祈
SATO TOMOKI

マラソン男子
T51 優勝
ピーター・ドゥ・プレア
PIETER DU PREEZ

ハーフマラソン男子
T34/53/54 優勝
生馬 知季
IKOMA TOMOKI

ハーフマラソン女子
T34/53/54 優勝
安川 祐里香
YASUKAWA YURIKA

ハーフマラソン男子
T33/52 優勝
伊藤 竜也
ITO TATSUYA

ハーフマラソン女子
T33/52 優勝
木山 由加
KIYAMA YUKA

閉会式

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

秋篠宮皇嗣殿下 お言葉

本日、「第40回記念 大分国際車いすマラソン」が開催され、大会に参加された選手ならびに関係者の皆様に、画面を通してではありますが、ご挨拶できますことを誠に嬉しく思います。

私は、31年前に開催された第10回大会で、初めて車いすマラソンを見学する機会を得ました。その時に覚えた本競技の躍動感は今でも深く印象に残っております。そのことから、このたびも大分県に赴いて出席をすることを楽しみにしておりましたので、本日出席が叶わないことは、大変残念です。

さて、先ほどは、世界のトップアスリートをはじめ、出場者がゴールを目指して力走する姿、そして、マルセル・フグさんの世界新記録と鈴木朋樹さんの日本新記録樹立を、映像を通して目の当たりにいたしました。レースを見ながら、私が出席した第10回大会で感じた躍動感と興奮の記憶が蘇りました。

この大分国際車いすマラソンは、別府市のご出身で日本の障がい者スポーツの父と呼ばれた中村裕博士の提唱により、1981年の国際障害者年を記念して、世界初の車いす単独の国際マラソン大会として始められたと伺っております。爾来、世界中の車いすアスリートにとって特別な大会へと発展してまいりました。

出場された皆様には、この大会への参加が、自らの競技力をさらに高める契機の一つになるとともに、新たな目標を見いだす里程標となることを願っております。
同時に、この大会を40年の長きにわたって支えてこられた、数多くの関係者やボランティアの方々のご尽力に心からの敬意を表します。

終わりに、この大会が、多くの選手にとってさらなる高みを目指して集う場として、また、世界の障がい者スポーツイベントのトップランナーとして、さらには、全ての人々が輝く共生社会を象徴するイベントとして、今後もますます輝き続けていかれることを祈念し、閉会式に寄せる言葉といたします。

An Address by His Imperial Highness Crown Prince Akishino

It is a great pleasure for me to be able to address, albeit remotely via a screen, the participating athletes and everyone else involved in the 40th Anniversary Oita International Wheelchair Marathon held today.

I had my first opportunity to watch a wheelchair marathon at the 10th event held 31 years ago. I still have a deep impression of the dynamic sensation of this competition which I felt at that time. Because of this, I had been looking forward to visiting Oita Prefecture on this occasion too to watch the race, and it is a matter of great regret that the present situation prevents me from attending in person today.

This morning, I watched on my monitor competitors, including some of the world’s top athletes, racing as fast as they could towards the finish line, and witnessed Mr. Marcel Hug’s new world record and Mr. Suzuki Tomoki’s new Japanese national record. And this revived in me the memory of the dynamic sensation and excitement I felt when I attended the 10th event.

I understand that this Oita International Wheelchair Marathon was established as the world’s first wheelchair-only international marathon event to mark the International Year of Disabled Persons 1981, through the advocacy of Dr. Nakamura Yutaka, known as the father of Japanese parasports, who was from Beppu City in Oita Prefecture. Since then, it has grown to become a special event for wheelchair athletes around the world.

To all the competitors, I hope that your participation in this event gives you the momentum to increase your competitive strength further, while also being a milepost towards seeking new goals.
At the same time, I would like to express my heartfelt respect for the efforts of the many people involved, and the volunteers who have supported this event over its long 40-year history.

In concluding my address, I hope that this event will continue to shine ever more brightly as a place where many athletes gather with aspirations to achieve new heights, as one of the top parasports events worldwide, and furthermore, as an event which symbolizes an inclusive society in which everyone can lead a vibrant life.

レース後、秋篠宮皇嗣同妃両殿下はオンラインで選手たちと交流された

ボランティア

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

陸上自衛隊 別府駐屯地 第41普通科連隊

大分県警察本部交通機動隊

ラッピング送迎バス

アシストスタッフ

オムロン株式会社

決して表に出ることなく、無事に大会を開催すべく
裏側で支えた多くの方々。こんな時だからこそ、
彼らの果たした役割は大きかった。

本田技研工業株式会社（本田技研労働組合）

全日本空輸株式会社

ジブラルタ生命保険株式会社

三菱商事株式会社

一般財団法人 大分陸上競技協会

株式会社ブンゴヤ薬局

大分東明高等学校

祝祭の広場イベント

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

11.21 (sun)

お部屋ラボ 祝祭の広場 ステージイベント

第1部 パブリックビューイング 9:30~12:00

第2部 Yell for All ライブ 12:00~15:00

お部屋ラボ 祝祭の広場

午前中のレース応援を終えたあとは、ステージイベントを楽しむ憩いの場に変身。庄内子供神楽、ダンススタジオ マイルス、匹田大智 津軽三味線、仮面女子、アルケミストと、5組の演者が登場。楽しい空間で盛り上がった。

庄内子供神楽

ダンススタジオ スマイルス

仮面女子

アルケミスト

四田大智

大分国際車いすマラソン

40年の歩み

1981►2020

「ラストスパート」豊後大野市 真澄アキヒロさんの作品

40年の歩み 第1～4回大会

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

1 第1回大会
The 1st Race

1981年11月1日(日)
14か国・地域／117名

太陽の家（別府市）で開催された開会式

TOPICS

- 国際障害者年の記念事業として開催
- 世界で初めての車いすだけの国際大会として開催
- ハーフマラソンのみ実施

2 第2回大会
The 2nd Race

1982年10月24日(日)
13か国／118名

地元の神楽が激励

TOPICS

- ハーフマラソンのみ実施
- リック・ハンセン選手（カナダ）が初めて1時間を切る58分30秒で総合優勝

3 第3回大会
The 3rd Race

1983年11月13日(日)
14か国・地域／118名

初の（フル）マラソン、スタートを待つ選手たち

TOPICS

- （フル）マラソンの部を加え、国際ストーク・マンデビル車椅子スポーツ連盟の公認大会となる
- 山本行文選手（大分県） がマラソン男子初の国内1位に輝く
- 大分市営陸上競技場が改修工事のため、競技場前の路上でフィニッシュ

4 第4回大会
The 4th Race

1984年11月11日(日)
22か国・地域／166名

マラソン女子総合優勝 キャンディス・ケーブル選手（アメリカ：左）、
2位 モニカ・ペテルスロム選手（スウェーデン：中央）、3位 幸塚直子選手（石川県：右）

TOPICS

- 大会生みの親である中村裕 博士（社会福祉法人 太陽の家 理事長：当時）が逝去（1984年7月23日 享年57）
- アンドレ・ヴィジェ選手（カナダ）がマラソン男子で2時間の壁を破る1時間48分25秒と世界記録を更新（当時）し総合優勝

5 第5回大会
The 5th Race

1985年11月10日(日)
20か国・地域／185名

皇太子同妃両殿下（現在の上皇上皇后両陛下）御臨席

TOPICS

・皇太子同妃両殿下（現在の上皇上皇后両陛下）御臨席
・山本行文選手（熊本県）がマラソン男子で日本人初の総合4位に入賞

6 第6回大会
The 6th Race

1986年11月2日(日)
19か国・地域／197名

日本人初のハーフマラソン男子総合優勝 林誠二選手（大阪府）

TOPICS

・アンジェラ・イェリティ選手（カナダ）がマラソン女子で2時間の壁を破る1時間58分51秒で総合優勝
・林誠二選手（大阪府）が日本人としてハーフマラソン初の総合優勝

7 第7回大会
The 7th Race

1987年11月1日(日)
20か国・地域／211名

「マットソン・テクニック」で一世を風靡したジャノヴァ・マットソン選手（スウェーデン：先頭）

TOPICS

・ハーフマラソンだけに適用していたクラス分けをマラソンにも適用（4クラス）
・アンドレ・ヴィジェ選手（カナダ）がマラソン男子で1時間44分18秒と世界記録を更新（当時）し総合4連覇

8 第8回大会
The 8th Race

1988年11月6日(日)
31か国・地域／271名

ポール・クラーク選手（カナダ：左）とアンドレ・ヴィジェ選手（カナダ：右）とのデッドヒート

TOPICS

・徳仁親王殿下（現在の天皇陛下）御臨席
・参加資格年齢を18才から16才に引き下げる
・ポール・クラーク選手（カナダ）がマラソン男子で1時間38分27秒と世界記録を更新（当時）し初の総合優勝、アンドレ・ヴィジェ選手（カナダ）の5連覇を阻む

9 第9回大会
The 9th Race

1989年11月5日(日)
25か国・地域／304名

長嶋茂雄氏(元巨人軍監督)も激励に

TOPICS

- 常陸宮同妃両殿下御激励
- ジャネット・ジャンセン選手(オランダ)がマラソン女子で1時間48分45秒で総合優勝
- 他の国際大会同様のクラス分けを採用(5クラス)

10 第10回大会
The 10th Race

1990年10月28日(日)
37か国・地域／441名

マラソン男子総合で初優勝 ハインツ・フライ選手(スイス)

TOPICS

- 秋篠宮同妃両殿下御臨席
- 大会功労者に感謝状贈呈、10回連続出場選手を表彰
- ハインツ・フライ選手(スイス)がマラソン男子で初の総合優勝
- 山口悟志選手(大阪府)が山本行文選手(熊本県)のマラソン男子国内8連覇を阻む

11 第11回大会
The 11th Race

1991年11月4日(日)
33か国・地域／419名

ハーフマラソン男子で2度目の総合優勝 サウル・メンドーサ選手(メキシコ)

TOPICS

- 高円宮殿下御激励
- 群馬県選手の出場により47都道府県すべてが参加

12 第12回大会
The 12th Race

1992年11月1日(日)
30か国・地域／430名

マラソン女子総合優勝 リリー・アングレニー選手(ドイツ)

TOPICS

- 国内選手で大会史上最多となる43都道府県・362名が出場
- 山本行文選手(熊本県)がマラソン男子で通算8回目の国内1位

13 第13回大会 The 13th Race

1993年10月31日(日)
32か国・地域／425名

2年ぶり3回目のマラソン男子総合優勝 ハインツ・フライ選手(スイス)

TOPICS

- ハインツ・フライ選手(スイス)がマラソン男子で1時間34分35秒で総合優勝、前人未踏の10連覇が始まる

14 第14回大会 The 14th Race

1994年10月30日(日)
27か国・地域／402名

マラソン男子総合1～3位

TOPICS

- 3分間の時間差スタート採用(ハーフマラソンが3分後にスタート)
- 室塚一也選手(北海道)が1時間39分09秒と日本記録を更新(当時)しマラソン男子で日本人初の総合3位入賞

15 第15回大会 The 15th Race

1995年10月29日(日)
42か国・地域／433名

マラソン女子で日本人初の総合優勝 畑中和選手(兵庫県)

TOPICS

- 清子内親王殿下(当時)御臨席
- 大会史上最多の42か国・地域からエントリー
- 畑中和選手(兵庫県)が、マラソン女子で日本人初の総合優勝
- 野沢英二選手(青森県)がハーフマラソン男子で国内3連覇

16 第16回大会 The 16th Race

1996年11月10日(日)
33か国・地域／409名

マラソン男子で日本人初の総合2位入賞 廣道純選手(兵庫県)

TOPICS

- 大分市営陸上競技場が改修工事のため、競技場前の路上でフィニッシュ
- 廣道純選手(兵庫県)がマラソン男子で日本人初の総合2位入賞

17 第17回大会
The 17th Race

1997年11月2日(日)
28か国・地域／433名

初のインターネット中継

TOPICS

- 畑中和選手（兵庫県）がマラソン女子で1時間39分40秒と世界記録を更新（当時）し、2回目の総合優勝
- 大会ホームページを開設、初のインターネット中継を実施
- フィニッシュ判定に小型無線発信機（RCチップ）を導入

18 第18回大会
The 18th Race

1998年11月1日(日)
27か国・地域／434名

選手宣誓 工藤金次郎選手（徳島県）

TOPICS

- 寛仁親王同妃両殿下御臨席
- OBS大分放送が初のラジオ実況中継を実施

19 第19回大会
The 19th Race

1999年10月31日(日)
26か国・地域／382名

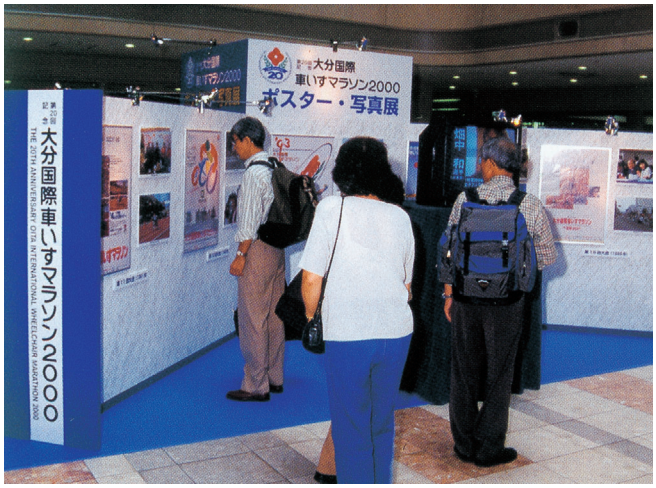
ハーフマラソン男子総合優勝 藤川泰博選手（兵庫県）

TOPICS

- スウェーデンのゴスペルシンガー、レーナ・マリアさんを開会式の特別ゲストに迎え、ミニ・コンサートを行う
- ハインツ・フライ選手（スイス）がマラソン男子で1時間20分14秒と世界記録を更新し総合7連覇

20 第20回大会
The 20th Race

2000年11月12日(日)
30か国・地域／417名



記念事業の一環として、羽田・関西空港等で写真展を開催

TOPICS

- 寛仁親王殿下御臨席
- 大会功労者へ感謝状贈呈
- 20回連続出場者と外国人最多出場のハインツ・フライ選手（スイス）に記念品授与
- マラソン男子で大会8連覇、通算10度目の優勝を飾ったハインツ・フライ選手（スイス）に対し、大分県から外国人名誉県民証が授与される

21 第21回大会 The 21th Race

2001年11月11日(日)
28か国・地域／412名

キッズボランティアの活動

TOPICS

- マラソン女子で土田和歌子選手（東京都）が1時間38分32秒と世界記録を更新し初の総合優勝
- キッズボランティアとして、県内の小学生219名がレース当日のボランティアの活動状況について見学

22 第22回大会 The 22th Race

2002年10月20日(日)
27か国・地域／370名

マラソン男子で総合10連覇を達成 ハインツ・フライ選手（スイス）

TOPICS

- 大会史上初の雨の中でのレース
- ハインツ・フライ選手（スイス）が1時間25分46秒でマラソン総合10連覇、通算12回目の優勝

23 第23回大会 The 23th Race

2003年11月16日(日)
20か国／348名

ハーフマラソン男子 大会記録で総合優勝 渡辺習輔（大分県）

TOPICS

- マラソン男子でジョエル・ジャノ選手（フランス）が初の総合優勝、ハインツ・フライ選手（スイス）の11連覇を阻む
- ハーフマラソン男子で渡辺習輔選手（大分県）が44分37秒と大会記録を更新し2度目の優勝

24 第24回大会 The 24th Race

2004年10月31日(日)
18か国／319名

市民交流型の開会式へと転換

TOPICS

- 開会式を一新、ガレリア竹町100周年とタイアップし、ドーム広場で開催
- 総合表彰を廃止、クラス呼称を変更（クラス1→T51、クラス2→T52、クラス3→T53/54）し、クラス別のレースを前面に打ち出す
- OAB大分朝日放送がテレビの録画中継放送を実施

25 第25回大会 The 25th Race

2005年10月30日(日)
20か国／320名

互いの健闘をたたえ合う エレンスト・ヴァン・ダイク選手（南アフリカ：右）、笹原廣喜選手（大分県：左）

TOPICS

- マラソン参加選手に日本身体障害者陸上競技連盟への登録を義務づけ
- 受付・クラス分けの会場を大分県庁舎本館1階へ変更、健康診査（メディカルチェック）を廃止
- 交歓の夕べをウェルカムパーティとし、パレードに引き続き若草公園で開催
- T53/54男子（マラソン・ハーフマラソンとも）の表彰を10位までから3位までに変更

26 第26回大会 The 26th Race

2006年10月29日(日)
16か国／293名

マラソン男子T53/54優勝 笹原廣喜選手（大分県）

TOPICS

- マラソンの部において国際車いす・切断者スポーツ連盟（IWAS）公認のクラス分けを実施
- マラソン男子T53/54で笹原廣喜選手（大分県）が1時間24分15秒と日本記録を更新（当時）し同クラスで日本人初の優勝
- 第11回ふるさとイベント大賞選考委員特別賞を受賞

27 第27回大会 The 27th Race

2007年10月28日(日)
15か国／261名

多くのボランティアスタッフの皆さん

TOPICS

- 国際パラリンピック委員会（IPC）の公認大会となる
- マラソン男子T51でハインリッヒ・クーベール選手（ドイツ）が5年ぶりの優勝

28 第28回大会 The 28th Race

2008年11月9日(日)
15か国／281名

マラソン女子T52優勝 八巻智美選手（福島県：右）、表彰式後にボランティアと談笑

TOPICS

- 雨天により、開会式後のパレードを中止し、開会式と同じ会場（ガレリア竹町ドーム広場）で交歓の夕べを開催
- マラソン女子T52で八巻智美選手（福島県）が2時間7分28秒と2年連続で世界記録を更新し、同クラス4連覇を達成

29 第29回大会 The 29th Race

2009年10月25日(日)
15か国／264名

マラソン男子T53/54で2年連続14度目の優勝 ハインツ・フライ選手(スイス)

TOPICS

- スタート直前に雨が降り出し、急きょ会場の設営を雨天対応へと変更
- 閉会式・表彰式を2年連続で大分市営陸上競技場内で実施
- マラソン女子T52でミシェル・スティルウェル選手(カナダ)が初マラソン初優勝
- マラソン男子T53/54でハインツ・フライ選手(スイス)が2年連続となる通算14度目の優勝

30 第30回大会 The 30th Race

2010年11月14日(日)
20か国／307名

フィニッシュ地点でご覧になる皇太子殿下(現在の天皇陛下)

TOPICS

- 皇太子殿下(現在の天皇陛下)御臨席
- マラソンT34/53/54男子では、マルセル・フグ選手(スイス)が7名の混戦を制し初優勝
- 同クラス女子では、アマンダ・マクグローリー選手(アメリカ)が3名の混戦を制し2度目の優勝

31 第31回大会 The 31th Race

2011年10月30日(日)
16か国／261名

雨の中走る選手へエールを送る応援者

TOPICS

- 前日から降り続く雨の中で開催
- マラソンT34/53/54男子では、マルセル・フグ選手(スイス)が2連覇
- 同クラス女子では、サンドラ・グラフ選手(スイス)が初優勝

32 第32回大会 The 32th Race

2012年10月28日(日)
14か国／251名

舞鶴橋を登る選手たち

TOPICS

- 前日の雨があがり、晴れ間ののぞく中で実施
- マラソンT34/53/54男子では、マルセル・フグ選手(スイス)が圧倒的な力を見せつけて3連覇
- 同クラス女子では、T34/53/54で3年ぶりの出場となった土田和歌子選手(東京都)が6回目の優勝を果たした

33 第33回大会 The 33th Race

2015年10月27日(日)
16か国／247名

井上聡選手（愛媛県）による選手宣誓

TOPICS

- マラソンT34/53/54男子では、マルセル・フグ選手（スイス）がスタート直後から独走の4連覇
- 同クラス女子では、この年からマラソンに転向したマニュエラ・シャー選手（スイス）が世界記録保持者の土田和歌子選手（東京都）を前輪ひとつほどの差でかわし世界新記録で初優勝

34 第34回大会 The 34th Race

2014年11月9日(日)
14か国／233名

マニュエラ・シャー選手（スイス）と土田和歌子選手（東京都）のトラック勝負

TOPICS

- 朝から雨模様だったが、開始直前に雨が上がるレース
- マラソンT34/53/54男子では、マルセル・フグ選手（スイス）が5連覇
- 同クラス女子では、マニュエラ・シャー選手（スイス）が土田和歌子選手（東京都）とのトラック勝負を制し、2連覇

35 第35回大会 The 35th Race

2015年11月8日(日)
15か国／232名

ハーフマラソン（T34/53/54）で初優勝の渡辺勝選手（福岡県）

TOPICS

- マラソンT34/53/54男子では、混戦を制してマルセル・フグ選手（スイス）が6連覇
- マラソンT51男子では、ピーター・ドゥ・プレア選手（南アフリカ）が初優勝

36 第36回大会 The 36th Race

2016年10月30日(日)
15か国／230名

駆け抜ける選手たちと沿道の応援者たち

TOPICS

- 大会史上初となる全国TV実況生中継を実施（OBS大分放送・BS-TBS）
- マラソンT34/53/54男子では、激しい戦闘争いの中、山本浩之選手（福岡県）が日本人として10年ぶり2人目の優勝
- 同クラス女子では、喜納翼選手（沖縄県）が初マラソン初優勝

40年の歩み 第37～39回大会

The 40th ANNIVERSARY
OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

37 第37回大会 The 37th Race

2017年10月29日(日)
18か国／258名(エントリー数)

大会は中止になったものの再会を喜びあう選手・ボランティアたち

TOPICS

・レース直前まで協議を重ねたが、台風22号に伴う気象状況の悪化に伴い、大会史上初めての中止

38 第38回大会 The 38th Race

2018年11月18日(日)
16か国／223名

拍手のアーチに送られながら競技場を去る選手たち

TOPICS

・天皇陛下御在位三十年記念大会として開催
・初参加選手の支援を行う「ファースト・チャレンジ・アシスト」を新たに創設し2名がハーフマラソンに出場・完走

39 第39回大会 The 39th Race

2019年11月17日(日)
18か国／210名

疾走するマラソン男子トップ集団

TOPICS

・マラソンT34/53/54男子では、鈴木朋樹選手(東京都)と優勝争いを繰り広げたマルセル・フグ選手(スイス)が僅差で2連覇
・同クラス女子では、マニュエラ・シャー選手(スイス)が自身の持つ世界記録を更新し4度目の優勝

2020大会(国内大会)

2020年11月15日(日)
国内選手のみ／99名

コロナ対策を行いながら行われた選手受付

TOPICS

・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、国内選手に限定して開催
・選手に対する事前のPCR検査、関係者に係る事前事後14日間の体調管理など様々な防疫対策を実施

40

The 40th ANNIVERSARY

OITA INTERNATIONAL WHEELCHAIR MARATHON

第40回記念 大分国際車いすマラソン

資料編

第40回記念大分国際車いすマラソン　結果概要

●気象条件（大分陸上競技協会／午前10時発表）

・天候　晴れ　　・気温　17.0℃　　・風向き　南南西　　・風速　1.3m/s　　・湿度　61%

●レース概況

第40回記念大分国際車いすマラソンは、11月21日（日）午前10時、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のオンラインでのご臨席を賜り、大分県庁前をスタート、大分市営陸上競技場をフィニッシュとする国際陸上競技連盟／日本陸上競技連盟公認コースで行われた。

当日は、穏やかな秋晴れの下、今大会から新しく生まれ変わったコースに、海外３か国から４名、国内26都府県から127名、計131名が出走。うちマラソン26名、ハーフマラソン98名、計124名が完走した。

マラソン男子では、最速クラス T34/53/54でマルセル・フグ選手（スイス）が、鈴木朋樹選手（東京都）を37km地点で振り切り、1999年にハインツ・フライ選手（スイス）が打ち立てた世界記録を22年ぶりに更新する１時間17分47秒で、大会３連覇、９度目の優勝を果たした。T33/52は、佐藤友祈選手（岡山県）が上与那原寛和選手（沖縄県）との争いを制し３度目の優勝、T51は、ピーター・ドゥ・プレア選手（南アフリカ）が大会５連覇を飾った。

マラソン女子では、T34/53/54で喜納翼選手（沖縄県）がタチアナ・マクファーデン選手（アメリカ）を抑え、３度目の優勝を果たした。

●記録等

【マラソン】

［男　子］

T34／53／54優勝	マルセル・フグ（スイス）	1゜17′47″	（世界新）
T33／52優勝	佐藤　友祈（岡山県）	1゜50′19″	
T51優勝	ピーター・ドゥ・プレア（南アフリカ）	2゜34′30″	

［女　子］

T34／53／54優勝	喜納　翼（沖縄県）	1゜40′13″	

国内１位	鈴木　朋樹（東京都）	1゜18′37″	（日本新）
県内１位	河室　隆一（大分県）	1゜35′51″	

【ハーフマラソン】

［男　子］

T34／53／54優勝	生馬　知季（岡山県）	44′43″
T33／52優勝	伊藤　竜也（福井県）	56′00″

［女　子］

T34／53／54優勝	安川　祐里香（沖縄県）	58′22″
T33／52優勝	木山　由加（岡山県）	1゜16′33″

●40回連続出場

吉川　勇（大分県）　　原田　耕一（大分県）

マラソンの部 表彰者/Prize Winners of marathon

クラス別

⑴女子〈T51〉

出走者なし

⑵男子〈T51〉

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード Number Card	氏名 Name		年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries／Territories	
1	2゜34′30″	31	ピーター・ドゥ・プレア	PIETER DU PREEZ	41	南アフリカ	SOUTH AFRICA

⑶女子〈T33／52〉

出走者なし

⑷男子〈T33／52〉

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード Number Card	氏名 Name		年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries／Territories	
1	1゜50′19″	28	佐藤　友祈	SATO TOMOKI	32	岡山県	JAPAN
2	1゜50′47″	29	上与那原　寛和	UEYONABARU HIROKAZU	50	沖縄県	JAPAN
3	2゜08′27″	30	松本　直幸	MATSUMOTO NAOYUKI	42	福岡県	JAPAN

⑸女子〈T34／53／54〉

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード Number Card	氏名 Name		年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries／Territories	
1	1゜40′13″	25	喜納　翼	KINA TSUBASA	31	沖縄県	JAPAN
2	1゜44′01″	26	タチアナ・マクファーデン	TATYANA MCFADDEN	37	アメリカ	USA

⑹男子〈T34／53／54〉

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード Number Card	氏名 Name		年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries／Territories	
1	1゜17′47″	1	マルセル・フグ	MARCEL HUG	35	スイス	SWITZERLAND
2	1゜18′37″	2	鈴木　朋樹	SUZUKI TOMOKI	27	東京都	JAPAN
3	1゜27′19″	8	西田　宗城	NISHIDA HIROKI	37	大阪府	JAPAN

ハーフマラソンの部 表彰者／Prize Winners of half marathon

クラス別

⑴女子〈T51〉

出走者なし

⑵男子〈T51〉

完走者なし

⑶女子〈T33／52〉

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード Number Card	氏名 Name		年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries／Territories	
1	1°16′33″	365	木山　由加	KIYAMA YUKA	37	岡山県	JAPAN

⑷男子〈T33／52〉

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード Number Card	氏名 Name		年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries／Territories	
1	0°56′00″	331	伊藤　竜也	ITO TATSUYA	35	福井県	JAPAN
2	1°11′02″	367	今井　義隆	IMAI YOSHITAKA	40	大阪府	JAPAN
3	1°12′20″	370	飯嶋　毅洋	IIJIMA TAKEHIRO	43	大阪府	JAPAN

⑸女子〈T34／53／54〉

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード Number Card	氏名 Name		年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries／Territories	
1	0°58′22″	330	安川　祐里香	YASUKAWA YURIKA	28	沖縄県	JAPAN
2	1°02′15″	415	正木　楓	MASAKI KAEDE	26	神奈川県	JAPAN
3	1°04′44″	410	棚田　優子	TANADA YUKO	59	富山県	JAPAN

⑹男子〈T34／53／54〉

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード Number Card	氏名 Name		年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries／Territories	
1	0°44′43″	305	生馬　知季	IKOMA TOMOKI	29	岡山県	JAPAN
2	0°47′12″	310	岸澤　宏樹	KISHIZAWA HIROKI	25	大阪府	JAPAN
3	0°47′13″	301	城間　圭亮	SHIROMA KEISUKE	25	長崎県	JAPAN

マラソン　クラス別順位/Rankings for Marathon in each class

●T51　男子

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード NumberCard	氏名 Name	年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries/Territories
1	2゜34′30″	31	ピーター・ドゥ・プレア	41	南アフリカ

世界記録：ハインリッヒ・クーベール　(ドイツ)　2゜23′08″　1995　ベルリン
日本記録：井上　聡　(愛媛県)　2゜30′32″　2006　サン・アントニオ
大会記録：ピーター・ドウ・プレア　(南アフリカ)　2゜27′07″　2019　第39回大分国際

●T51　女子　出走者なし

●T33／52　男子

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード NumberCard	氏名 Name	年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries/Territories
1	1゜50′19″	28	佐藤　友祈	32	岡山県
2	1゜50′47″	29	上与那原　寛和	50	沖縄県
3	2゜08′27″	30	松本　直幸	42	福岡県

世界記録：トーマス・ガイアシュペヘラー　(オーストリア)　1゜40′07″　2008　北京パラリンピック
日本記録：上与那原　寛和　(沖縄県)　1゜40′10″　2008　北京パラリンピック
大会記録：サンティアゴ・サンツ　(スペイン)　1゜43′46″　2007　第27回大分国際

●T33／52　女子　出走者なし

●T34／53／54　男子

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード NumberCard	氏名 Name	年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries/Territories
1	1゜17′47″	1	マルセル・フグ	35	スイス
2	1゜18′37″	2	鈴木　朋樹	27	東京都
3	1゜27′19″	8	西田　宗城	37	大阪府
4	1゜29′23″	4	渡辺　勝	29	福岡県
5	1゜29′23″	5	副島　正純	51	長崎県
6	1゜29′38″	9	洞ノ上　浩太	47	福岡県
7	1゜35′10″	6	吉田　高志	43	大阪府
8	1゜35′51″	11	河室　隆一	48	大分県
9	1゜37′02″	14	松永　仁志	49	岡山県
10	1゜42′17″	13	武村　浩生	33	福岡県
11	1゜45′42″	15	佐藤　健	38	埼玉県
12	1゜45′47″	17	辰巳　晃一	57	愛知県
13	2゜00′08″	18	笹原　廣喜	47	大分県
14	2゜09′31″	21	藤原　修	58	大分県
15	2゜09′45″	16	西原　宏明	41	京都府
16	2゜09′57″	19	鎌田　成利	39	徳島県
17	2゜15′23″	22	海野　剛	46	静岡県
18	2゜25′28″	24	樋栄　聖	48	大阪府
19	2゜31′34″	20	馬本　節男	63	広島県
20	2゜31′34″	23	野々村　知幸	54	愛知県

世界記録：マルセル・フグ　(スイス)　1゜17′47″　2021　第40回大分国際
日本記録：鈴木　朋樹　(東京都)　1゜18′37″　2021　第40回大分国際
大会記録：マルセル・フグ　(スイス)　1゜17′47″　2021　第40回大分国際

●T34／53／54　女子

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード NumberCard	氏名 Name	年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries/Territories
1	1゜40′13″	25	喜納　翼	31	沖縄県
2	1゜44′01″	26	タチアナ・マクファーデン	37	アメリカ

世界記録：マニュエラ・シャー　(スイス)　1゜35′42″　2019　第39回大分国際
日本記録：喜納　翼　(沖縄県)　1゜35′50″　2019　第39回大分国際
大会記録：マニュエラ・シャー　(スイス)　1゜35′42″　2019　第39回大分国際

ハーフマラソン　クラス別順位/Rankings for Half Marathon in each class

●T51　男子　　完走者なし

●T51　女子　　出走者なし

●T33／52　男子

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード NumberCard	氏名 Name	年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries/Territories
1	0°56′00″	331	伊藤　竜也	35	福井県
2	1°11′02″	367	今井　義隆	40	大阪府
3	1°12′20″	370	飯嶋　毅洋	43	大阪府
4	1°20′38″	375	安野　祐平	31	鳥取県
5	1°23′34″	384	松尾　充浩	44	大阪府
6	1°25′52″	388	関谷　真一	52	宮崎県
7	1°27′02″	405	田澁　寿一	41	大分県
8	1°27′55″	381	岩上　豪一	58	鳥取県
9	1°28′29″	390	櫻井　悠也	28	愛知県
10	1°28′47″	382	宇佐見　保弘	55	大阪府
11	1°29′37″	379	小出　公典	48	大分県
12	1°30′17″	383	比嘉　三男	56	沖縄県
13	1°33′54″	387	川久保　一馬	71	佐賀県
14	1°39′31″	417	矢島　一樹	24	熊本県
15	1°46′54″	395	中崎　真	52	鹿児島県
16	1°52′04″	412	清原　大輝	17	宮崎県
17	1°56′17″	401	洲鎌　敏美	64	沖縄県
18	1°58′44″	414	堤　福仁	14	宮崎県

●T33／52　女子

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード NumberCard	氏名 Name	年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries/Territories
1	1°16′33″	365	木山　由加	37	岡山県

●T34／53／54　男子

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード NumberCard	氏名 Name	年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries/Territories
1	0°44′43″	305	生馬　知季	29	岡山県
2	0°47′12″	310	岸澤　宏樹	25	大阪府
3	0°47′13″	301	城間　圭亮	25	長崎県
4	0°47′14″	302	渡辺　習輔	53	大分県
5	0°48′12″	311	仲泊　厚志	16	沖縄県
6	0°48′13″	303	百武　強士	35	佐賀県
7	0°48′39″	306	大津　圭介	54	福岡県
8	0°48′55″	304	佐矢野　利明	33	大分県
9	0°48′56″	315	佐々木　凜平	25	東京都
10	0°48′57″	312	炭谷　延幸	44	福岡県
11	0°48′59″	308	寒川　進	53	京都府
12	0°49′02″	309	田中　祥隆	46	福岡県
13	0°49′07″	313	山口　修平	35	大分県
14	0°49′11″	317	萩原　孝幸	45	兵庫県
15	0°49′15″	314	橋本　優樹	38	福岡県
16	0°52′16″	316	用田　竹司	45	京都府
17	0°56′05″	322	渡邊　敏貴	54	東京都
18	0°56′08″	324	櫻井　秀彦	44	静岡県
19	0°56′23″	341	山口　悟志	65	愛媛県
20	0°57′10″	320	中井　康彦	42	大阪府
21	0°57′37″	336	馬場　達也	32	東京都
22	0°58′19″	323	山本　秀明	45	広島県
23	0°58′24″	334	鈴木　俊光	65	静岡県
24	0°58′26″	404	渡邉　昭次	44	大分県
25	0°58′29″	318	岩下　啓三	46	熊本県
26	0°58′32″	328	三浦　智晴	54	大分県
27	0°59′51″	416	細川　一雄	63	富山県
28	1°01′18″	335	大西　慶尚	29	兵庫県
29	1°01′21″	340	馬場　和也	41	京都府
30	1°02′15″	339	城　隆志	61	大分県
31	1°02′16″	332	西原　健一	58	高知県
32	1°02′16″	338	友岡　昭二	66	愛知県
33	1°03′21″	353	松尾　健次	53	佐賀県
34	1°03′21″	337	内賀島　守	60	熊本県
35	1°05′02″	326	能島　孝洋	39	岡山県
36	1°05′02″	348	小川　敬	63	宮崎県
37	1°05′03″	352	吉川　勇	68	大分県
38	1°05′51″	351	冨川　文男	69	山口県
39	1°05′53″	321	佐野　純一郎	40	京都府
40	1°06′04″	354	内田　琢馬	19	佐賀県
41	1°06′13″	358	市野　隆	63	静岡県
42	1°06′14″	357	山入端　清宗	69	沖縄県
43	1°06′14″	342	村上　勝也	60	佐賀県
44	1°06′15″	346	鬼村　正人	60	島根県
45	1°06′25″	356	フゴー・ミュラー	58	スイス
46	1°06′49″	350	田中　浩貴	30	兵庫県
47	1°07′00″	380	野田　浩二	54	大分県
48	1°08′12″	345	津崎　裕之	53	熊本県
49	1°08′31″	364	竹内　信広	45	熊本県
50	1°08′33″	368	前原　彰太朗	31	宮崎県
51	1°08′33″	349	新地　亮平	40	鹿児島県
52	1°09′16″	403	八田　カルロス	47	愛知県
53	1°10′17″	374	荻堂　盛助	74	沖縄県
54	1°11′53″	366	原田　耕一	64	大分県
55	1°12′26″	347	佐藤　隆信	59	大分県
56	1°15′32″	360	後　義春	65	福井県
57	1°15′32″	355	中尾　柊太	17	福岡県
58	1°15′46″	413	佐伯　秋浩	54	愛媛県
59	1°15′57″	409	マハラジャン スジャン	26	大分県
60	1°16′19″	363	塩地　優	33	大分県

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード NumberCard	氏名 Name	年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries/Territories
61	1°19′34″	391	井﨑　英明	52	大分県
62	1°21′33″	371	後藤　忠正	66	熊本県
63	1°23′41″	376	外山　哲功	67	宮崎県
64	1°29′41″	372	酒井　俊二	68	愛知県
65	1°31′27″	389	辻野　春翔	16	福岡県
66	1°44′05″	411	立川　隼	15	大分県
67	1°44′16″	400	高峯　俊	20	熊本県
68	1°44′16″	373	山本　行文	67	熊本県
69	1°44′58″	397	原野　優季	39	佐賀県
70	1°46′13″	394	川添　圭介	37	宮崎県
71	1°52′05″	392	斉藤　竜一	21	大分県

●T34／53／54　女子

順位 Rank	記録 Time	ナンバーカード NumberCard	氏名 Name	年齢 Age	都道府県／国／地域 Countries/Territories
1	0°58′22″	330	安川　祐里香	28	沖縄県
2	1°02′15″	415	正木　楓	26	神奈川県
3	1°04′44″	410	棚田　優子	59	富山県
4	1°09′31″	362	見﨑　真未	19	熊本県
5	1°10′10″	377	山入端　依子	60	沖縄県
6	1°23′17″	398	片平　留依	28	福岡県
7	1°39′59″	385	奥谷　いつ子	62	愛知県
8	1°58′25″	399	西山　美沙希	21	大分県

大分国際車いすマラソン大会記録集（クラス別歴代１位）

【マラソン】

クラス	タイム	氏　名	国／都道府県	年	大　会
T34／53／54	1°17′47″	マルセル・フグ	スイス	2021	第40回記念大会
T33／52	1°43′46″	サンティアゴ・サンツ	スペイン	2007	第27回大会
T51	2°27′07″	ピーター・ドゥ・プレア	南アフリカ	2019	第39回大会

【ハーフマラソン】

クラス	タイム	氏　名	国／都道府県	年	大　会
T34／53／54	43′42″	久保　恒造	北海道	2020	2020大会
T33／52	53′10″	佐藤　友祈	静岡県	2014	第34回大会
T51	1°04′09″	三浦　尊	愛知県	1999	第19回大会

第40回記念大分国際車いすマラソン　国、都道府県別の出走者数

The 40th Anniversary Oita International Wheelchair Marathon The Number of Participants of Countries &Territories

国内参加者

Japanese Participants

都道府県名 Prefecture	マラソン Marathon		ハーフマラソン Half Marathon		合計 Total		
	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	
北海道							
青森県							
岩手県							
宮城県							
秋田県							
山形県							
福島県							
茨城県							
栃木県							
群馬県							
埼玉県	1				1		1
千葉県							
東京都	1		3		4		4
神奈川県				1		1	1
新潟県							
富山県			1	1	1	1	2
石川県							
福井県			2		2		2
山梨県							
長野県							
岐阜県							
静岡県	1		3		4		4
愛知県	2		4	1	6	1	7
三重県							
滋賀県							
京都府	1		4		5		5
大阪府	3		6		9		9
兵庫県			3		3		3
奈良県							
和歌山県							
鳥取県			2		2		2
島根県			1		1		1
岡山県	2		2	1	4	1	5
広島県	1		1		2		2
山口県			1		1		1
徳島県	1		1		2		2
香川県							
愛媛県			2		2		2
高知県			1		1		1
福岡県	5		6	1	11	1	12
佐賀県			6		6		6
長崎県	1		1		2		2
熊本県			9	1	9	1	10
大分県	3		20	1	23	1	24
宮崎県			7		7		7
鹿児島県			2		2		2
沖縄県	1	1	6	2	7	3	10
計	23	1	94	9	117	10	127
	24		103				

海外参加者
Foreign Participants

国または地域名 Country & Territory	マラソン Marathon		ハーフマラソン Half Marathon		合計 Total		
	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	
南アフリカ (SOUTH AFRICA)	1				1		1
スイス (SWITZERLAND)	1		1		2		2
アメリカ (U.S.A.)		1				1	1
計	2	1	1		3	1	4

参加者（種目集計）
Participants

参加者数 Participants	マラソン Marathon		ハーフマラソン Half Marathon		合計 Total	
	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female
国内 Japanese Participants 26都府県	23	1	94	9	117	10
	24		103		127	
海外 Foreign Participants 3か国	2	1	1		3	1
	3		1		4	
合計 Total 4か国・地域	25	2	95	9	120	11
	27		104		131	

第40回記念大分国際車いすマラソン　実施要綱

1　目　的
この大会は、日本国内及び外国・地域の身体に障がいのある方が車いすマラソンを通じて、希望と勇気をもって社会に参加する意欲を喚起するとともに、広く県民が障がいのある方についての関心と理解を深めることを目的とする。

2　名　称
第40回記念大分国際車いすマラソン

3　主　催
大分県、公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会、一般社団法人日本パラ陸上競技連盟、大分市、大分合同新聞社、社会福祉法人大分県社会福祉協議会、大分県障がい者スポーツ協会

4　公　認
世界パラ陸上競技連盟（World Para Athletics）
（この大会は、WPA Approved Event として公認されている。マラソンについては、国際パラリンピック委員会（IPC）選手ライセンス登録が完了し、かつ国際クラスを保持する選手の結果及び記録のみ、WPA の公認対象となる。なお、ハーフマラソンの全結果は、WPA の公認対象ではない。）

5　主　管
一般財団法人大分陸上競技協会

6　共　催
株式会社大分放送

7　後　援
外務省、厚生労働省、スポーツ庁、大分県教育委員会、大分市教育委員会、公益財団法人大分県スポーツ協会、一般社団法人大分県身体障害者福祉協会、社会福祉法人大分合同福祉事業団、社会福祉法人太陽の家、社会福祉法人大分県共同募金会、公益社団法人大分県理学療法士協会、NHK 大分放送局、株式会社テレビ大分、大分朝日放送株式会社、株式会社エフエム大分

8　協　賛
オムロン株式会社、ソニーグループ株式会社、本田技研工業株式会社、三菱商事株式会社、株式会社デンソー、株式会社本田技術研究所、株式会社富士通エフサス、富士通株式会社、新日本製薬株式会社、株式会社大分銀行、株式会社九電工、キヤノン株式会社、株式会社シップス、ジブラルタ生命保険株式会社、清水建設株式会社、公益社団法人大分県薬剤師会、株式会社マルミヤストア、全日本空輸株式会社、全国共済農業協同組合連合会、株式会社別大興産、明野中央病院、東京海上日動火災保険株式会社、第一生命保険株式会社、鬼塚電気工事株式会社、ファイテン株式会社、株式会社コンカー、公益財団法人笹川スポーツ財団、日本郵便株式会社、ヤフー株式会社、西日本電信電話株式会社、社会福祉法人わかば会清流の郷、株式会社オートバックスセブン、有限会社ドリームライン、株式会社ブンゴヤ薬局、株式会社スズキ、新星工業株式会社、株式会社太田旗店、日本赤十字社大分県支部、株式会社大鐵、株式会社フジタ

9　協　力
大分県警察本部、陸上自衛隊第41普通科連隊、大分市交通指導員連合会、日本赤十字社大分県支部、国立大学法人大分大学、別府重度障害者センター、社会医療法人恵愛会大分中村病院、医療法人社団唱和会明野中央病院、大分市医師会立アルメイダ病院、社会福祉法人農協共済別府リハビリテーションセンター、大分県障害者スポーツ指導者協議会

10　日　時
令和３年11月20日（土）
９時00分～12時00分　選手受付　（大分県庁舎）
９時30分～14時00分　クラス分け　（大分市営陸上競技場）
16時00分～16時20分　開会式　（大分市祝祭の広場）
17時00分～17時30分　有力選手記者会見　（大分市祝祭の広場）
令和３年11月21日（日）
８時00分～　９時20分　手荷物・生活用車いすの受付　（大分城址公園）
８時00分～　９時20分　競技用車いすの検定、ロゴチェック　（大分城址公園）
８時00分～　９時25分　ウォームアップ　（大分市役所周辺）
９時25分～　９時45分　プレラインアップ　（大分市役所東側）
10時00分　マラソンスタート　（大分県庁前）
10時03分　ハーフマラソンスタート　（大分県庁前）
13時20分～　閉会式・表彰　（大分市営陸上競技場）
※９時50分から大分市祝祭の広場にてレース映像観戦（パブリックビューイング）を実施。

11　大会開催の基準等
⑴大会開催の目安となる基準（新型コロナウイルス感染症に係る部分）
別に定める「新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン」（随時改訂）の規定に基づき、下記①から③までの全ての基準を満たす場合にレースを開催する。
①本県に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発出されていない又はまん延防止等重点措置区域に指定されていないこと
②大分県知事が飲食店等に対する休業要請や時短要請を行っていないこと
③政府が定める感染状況に関する各種基準等、その他の要素を総合的に勘案し、大会の開催が可能であると判断できること
⑵大会開催の基準（自然災害等に係る部分）
大会中止基準及び緊急時の対応等は、「第40回記念大分国際車いすマラソン危機対応マニュアル」に基づき対応する。
なお、雨天時においても原則として競技を実施する。

12　実施種目及びコース
マラソン　（42.195km）
大分市内（国際陸上競技連盟／日本陸上競技連盟公認コース）
ハーフマラソン（21.0975km）
大分市内（国際陸上競技連盟／日本陸上競技連盟公認コース）

13　参加資格
令和３年11月21日現在、満14歳以上の者で下記の条件を満たす者とする。
【マラソン】
①国内選手については、身体障害者手帳を所持する車いす使用者、かつ日本パラ陸上競技連盟に登録した者で、主催者が認定した者
②外国・地域選手については、車いす使用者、かつ各国の国際パラリンピック委員会に加盟した団体、又はそれに該当する団体に登録した者で、主催者が認定した者
【ハーフマラソン】
①国内選手については、身体障害者手帳を所持する車いす使用者で、主催者が認定した者
②外国・地域選手については、車いす使用者で、主催者が認定した者
（注意）
※その他、選手、介助者及び競技運営関係者（競技役員、ボランティア等）（以下、「選手及びスタッフ等」とする。）の大会への参加等を認める基準
選手及びスタッフ等については、下記①から③までの基準に１つでも該当する場合、参加を認めない。
①体調管理チェックシート（選手は原則専用アプリを利用）を使用し大会前14日間の体調確認が行うことができない場合
②体調管理チェックシート等において、直近14日間の間に感染疑い症状が見られる場合
③大会当日（スタッフ等においては業務従事当日）時点で、新型コロナウイルス感染症患者の濃厚接触者として、行政から自宅待機を要請され、健康調査が行われている者
④大会当日（スタッフ等においては業務従事当日）の受付において実施する検温において、37.5度以上または平素の体温よりも高いと認められる場合
⑤大会前及び当日に実施する新型コロナウイルス検査において「陽性」の判定を受けた場合

14　参加料
マラソン5,000円、ハーフマラソン1,000円とする。
※エントリー後、大会が中止になった場合は、振込手数料を除いた参加料を選手へ返金する。

15　競技規則
World Para Athletics 競技規則（大会開催日に適用となる最新の WPA 競技規則）及び別に定める本大会競技注意事項等による。
参加するすべての選手に WPA 競技規則の広告に関する規程が適用される。

16　クラス分け
⑴マラソン、ハーフマラソンとも、T51、T33/52、T34/53/54の３クラスに分ける。
⑵クラス分けが必要な選手については、大分市営陸上競技場において判定する。
なお、この大会で行われるクラス分けは、日本国内では有効であるが、WPA の国際クラスとしては承認されるものではない。

17　ドーピング検査
本大会では、ドーピング検査を実施する。

18　表　彰
⑴マラソン・ハーフマラソンとも男女別・クラス別に１位から３位を表彰する。
⑵マラソンにおいて一定以上の成績をあげた選手に対して、賞金を授与する。金額については、別に定める。
⑶順位決定及び賞金の授与には、WPA における公認や選手登録の有無は影響しない。

19　申込方法
申込方法は以下のいずれかとする。
①公式ホームページの電子エントリーフォームによる申込み。
②参加申込書に必要事項を明記し、顔写真２枚を添付の上、大会事務局あて郵送またはメールにて送付する（当日消印有効。なお、メールによる参加申込書の送付の場合は、顔写真の画像ファイルを１枚添付すればよい）。
※①、②ともに、参加申込みの締切は、令和３年８月31日（火）までとする。

20　競技中の事故
競技中の事故により負傷した場合、応急処置は主催者において実施するが、治療費は原則として選手の負担とする（健康保険証を持参すること）。

21　観戦及び応援　※今後の状況により変更となる場合がある。
⑴新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、スタート地点（ウォーミングアップエリア含む）及びコース上では、マスクを着用のうえ、大声を出さずフィジカルディスタンスを確保しての観戦を要請する。
⑵開会式及びレース映像観戦（パブリックビューイング）会場への入場は、会場入口で検温等体調チェックを行い、異常のなかった方のみ認めることとする。なお、入場者数の上限は480人とし上限に到達次第、入場制限を行う。
⑶フィニッシュ地点（大分市営陸上競技場内）への入場は、大会事務局が事前に発行した ID カードを着用し、会場入口で検温等体調チェックを行い異常のなかった方について、国の定める基準の範囲内で認める。

22　健康管理
選手及びスタッフ等の健康管理については、「新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン」（随時改定）の規定に基づき、適切に実施する。

23　選手及び競技運営関係者を対象とする保険への加入
⑴競技中の事故等に備え、主催者において、選手及びスタッフ等を対象とする保険に加入する。保険の内容については、別途示すこととする。
⑵主催者は、選手及びスタッフ等が、新型コロナウイルス感染症等に感染した場合にあってはいかなる責任も負わないこととする。

24　個人情報の取扱い
主催者及び大会事務局は個人情報保護に関する法令を遵守する。
なお、取得した個人情報は参加資格の審査、プログラム編成及び作成、応援チラシ等の印刷物の作成、報道機関からの問い合わせ、広報活動、記録発表、感染予防対策、並びにその他競技運営に必要な用途に限り利用する。

25　大会事務局
大会事務局は、大分県福祉保健部障害者社会参加推進室内、大分県障がい者スポーツ協会に置く。

所　在　地　〒870-8501
大分市大手町３丁目１番１号
電話番号　097-533-6006
F　A　X　097-506-1736
第40回記念大分国際車いすマラソン事務局メールアドレス
kurumaisu-marathon@pref.oita.lg.jp
第40回記念大分国際車いすマラソンホームページ URL（アドレス）
www.kurumaisu-marathon.com

第40回記念大分国際車いすマラソン　危機対応マニュアル

Ⅰ　趣旨

このマニュアルは、第40回記念大分国際車いすマラソンの中止基準及び緊急事案発生時の対応について、大会本部、関係者の対応に必要な事項を定めるものとする。

Ⅱ　大会中止基準

⑴大分地方気象台が、大分市に警報（大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪、高潮）を発表したとき又は発表するおそれがあるとき。
⑵県内で震度５強以上の地震を観測し、大分県に災害対策本部が設置されたとき。
⑶県内に津波警報（大津波）が発表され、大分県に災害対策本部が設置されたとき。
⑷その他の災害で大分県に災害対策本部が設置されたとき。
⑸コース上で大規模な事故、事件、火災、ガス漏れ、水道管破裂、道路陥没、停電等により、レース運営に支障を来す事案が発生したとき。
⑹全国瞬時警報システム（Ｊアラート）が発令され安全確保ができないとき。
⑺国内で大災害が発生したとき、又は社会的に大きな事件等が発生したとき。
⑻ただし、上記⑴～⑺の場合であっても、大会会長が実施可能と判断し、大会を開催する場合がある。

Ⅲ　判断方法（レース前）

大会事務局により、下記の日程で開催検討会議を逐次実施し開催の可否について検討する。

なお、検討にあたっては、大会技術代表及び競技役員総務の意見を反映すること。

①　レース７日前
②　レース前日　　午前10時
③　レース当日　　午前４時

最終決定は開催検討会議の結果をふまえ、大会会長が判断する。

Ⅳ　緊急事案発生時の対応

大会期間中に緊急事案が発生し、又は発生するおそれがある場合は、大会本部及び関係者において、事態に対処するものとする。

⑴想定される緊急事案の種類

事案の態様	種　別
自然災害	①風雨 ②地震 ③津波 ④噴火 ⑤その他大規模な災害
大規模な事件	⑥弾道ミサイル発射 ⑦爆破 ⑧無差別テロ ⑨毒劇物散布（異臭騒ぎ含む） ⑩各事案の予告 ⑪不審物（者）の発見
大規模な事故	⑫爆発 ⑬火災 ⑭ガス漏れ ⑮水道管破裂 ⑯道路陥没 ⑰停電

⑵対処行動

緊急事案が発生した場合は、迅速かつ的確に以下の措置を講ずる。

ア　大会関係者等への情報伝達と避難準備

大会本部は大会関係者等に対し、発生した緊急事案を正確に伝えるとともに、混乱をきたさないよう、場内放送、無線及び携帯電話による周知、大会協力者の口頭、その他あらゆる手段により、大会関係者等に対して周知を図り、必要に応じて避難準備等を促すものとする。

イ　選手及び観客への情報伝達と避難準備

緊急車両、最終通告車等によるアナウンス並びにコース付近での大会協力者の口頭など、その他あらゆる手段により選手及び観客に対して周知を図り、必要に応じて避難準備等を促すものとする。

ウ　救護活動

負傷者が発生した場合は、可能な範囲で身元確認に努めるとともに、安全な場所に誘導し、到着した消防（救急隊）に引き継ぐものとする。

エ　避難誘導及び残留者の確認

避難誘導に際しては、避難行動の支障となる物品を撤去し、安全確保対策を行うとともに、自らの行動に制約のある障がい者、乳幼児等、避難行動要支援者に配慮を行いながら、誘導するものとする。

なお、避難誘導中に負傷者又は逃げ遅れた者を発見した場合は、大会関係者が相互に連携し、救護又は誘導に努めるとともに、対応が不可能と判断した場合は、速やかに警察・消防に引き継ぐものとする。

オ　スタート後のレース中止による選手の収容

コース上の選手を収容し、収容車ほかコース配置車両を総動員して大分市営陸上競技場又は大会本部が指定する場所に帰着させる。

第40回記念大分国際車いすマラソン競技注意事項

競技注意事項に加え、本大会の新型コロナウイルス感染防止対策に関わる事項がありますので、熟読のうえ、遵守をお願いします。

本大会は、World Para Athletics 競技規則（大会開催日に適用となる最新の WPA 競技規則）及び競技注意事項等により実施する。

■競技注意事項

（以下、下線部は競技注意事項における昨年大会からの変更箇所）

1　本大会は、マラソン、ハーフマラソンを実施する。
2　マラソンとハーフマラソンのスタートは、時間差スタートとし、時間差は３分とする（男女共通）。
3　競技者は、衣類及び車いすについて、WPA 競技規則の広告に関する規程を遵守しなければならない。
4　競技者は、スタートラインからフィニッシュラインまで、コース内の決められた走路を走行する。
5　競技者は競技役員の許可を得て、かつその監督下にある場合は、コースを離れたことにより走行距離が短くならないことを条件に示されたコースを離れることができる。
6　本大会では、種目（マラソン・ハーフマラソン）、クラス又は性別の異なる選手の背後を５m 以内の距離で追走する行為（ドラフティング）を禁止する。
7　競技者が走行中に他の競技者の走行を故意に妨害した場合は、失格とする。
8　競技者は、ヘルメットを着用しなければならない。
ヘルメットは外殻が固く、保護性に優れ、国際安全基準（スネル規格 b-84/90/95、BSI6863、EN1078等）を満たしていなければならない。
9　競技者が走行中に転倒した場合は、競技役員及び警察官による介助のみ受けられる。ただし、競技者に有利になるような介助は受けてはならない。
10　競技中における車いす修理の援助は、競技役員にかぎり許可するが、修理に必要な器具等の提供、貸与は行わない。
11　審判長または医師から中止を命じられた競技者は、直ちに競技を中止しなければならない。
12　競技者は、競技役員及び警察官の指示に従わなければならない。
13　競技者は競技中、下肢のいかなる部分も地面又はトラックに接触してはならない。
14　クラス分けについては、別紙の国際クラス分け表による。
15　本大会では、ドーピング検査を実施する。
16　関門の制限時間を次のとおり設ける。

（マラソンの部）
第一関門（約３km）……19分00秒
15km地点……１時間00分00秒
25km地点……１時間45分00秒
35km地点……２時間25分00秒
フィニッシュ地点……３時間00分00秒

（ハーフマラソンの部）
第一関門（約３km）……19分00秒
10km地点……57分00秒
15km地点……１時間27分00秒
フィニッシュ地点……２時間07分00秒

制限時間を超えた競技者は、関門に到達していなくても、直ちに収容車に収容する。

17　水の供給については、次のとおりとする。
⑴　給水所を次のとおり設ける。
マラソンの部……７km（26km地点を兼ねる）、13km（31kmを兼ねる）、18km（36km地点を兼ねる）地点付近
ハーフマラソンの部…７km、13km地点付近
⑵　主催者が用意するものは水だけとし、その他の飲料は用意しない。
⑶　競技者は、主催者が設けた各給水所以外で他人から飲食物やスポンジなどを受け取った場合は、失格とする。なお、主催者が設けた場所では、競技役員の介助を受けてもよい。
⑷　各給水所にて、競技者に対する霧吹きによる水の噴霧を行う。
希望する競技者は各給水所にて競技役員に申し出ることとし、噴霧は競技役員が行い、各給水所以外の場所では行わない。

18　車いすについては、次のとおりとする。
⑴　車いすは２つの大きな車輪と１つの小さな車輪から成るものとし、小さな車輪は、車いすの前方になければならない。
⑵　すべての車いすは、安全の目的から、機能的な（制動制御）ブレーキシステムを備えていなくてはならない。
⑶　車いすのフレームのいかなる部分も前輪の車軸を超えて前方に突き出ていてはならず、さらにフレームおよびその付属品の幅はリムの傾斜面より広くてはならない。車いすフレーム底部の地面からの高さは、50㎝以内とする。
⑷　車いすのいかなる部分も後輪の最後部を結んだ垂直面から後方に突き出ていてはならない。
⑸　後輪、前輪の直径は十分に空気を入れたタイヤを含んでそれぞれ70㎝、50㎝を超えてはならない。
⑹　各大輪には平らで円形のプッシュリムをただ１つ付けることができる。
ただし、この規則は選手受付時に実施するクラス分けの結果と技術代表の判断があれば、片腕で車いすを操作する競技者のためにこの規則を変更できる。
⑺　車いすを推進するいかなる機械的ギアやレバーも使用してはならない。
⑻　トラック及び道路競技ではミラーの使用を禁止する。
⑼　機械的操縦装置は腕で操作するもののみ認める。
⑽　競技者は前輪を手動で左右に動かすことができなければなら

ない。
⑾ フェアリングの使用又は空気力学的な能力を向上させるように特別に設計された車いすやそれに類似した装置の使用は禁止する。
⑿ 車いすは招集場で測定を受ける。いったん検査を受けた車いすであっても、競技開始前または終了後に競技役員が再検査することがある。
⒀ 前述の全ての規則に従うのは競技者の責任であり、いかなる競技も競技者が車いすを調整するために遅れることがあってはならない。
⒁ 車いす後部に転倒防止を目的としたキャスターの取り付けについて、ハーフマラソンに出場する T51クラスのみ、取り付けを認める。

19 アスリートビブス（旧ナンバーカード）について
アスリートビブスは配布された形で着用しなければならず、切ったり折りたたんだりあるいはいかなる方法でも見えなくしてはならないが、風通しをよくする目的で、文字や数字の部分を避けて穴をあけることは可能とする。

20 撮影機器について
競技者は、競技区域内に小型カメラ、携帯電話等の撮影が可能な機器（静止画、動画問わず）を持ち込んではならない。競技区域内とは、ウォーミングアップ区域及びプレラインアップからフィニッシュエリア（芝生内）までの区域を指す。

21 下記については、助力行為とみなさずに許可する。
身体保護及び/あるいは医療目的のあらゆる身体保護具。（包帯、絆創膏、ベルト、支持具、冷却機能付きリストバンド、携帯用酸素ボンベ等の呼吸器具。）
競技者本人が携帯もしくは着用して使用する心拍計、速度・距離計、ストライドセンサー、その他類似の機器。ただし、他者との通信に使用不可能なものに限る。

■新型コロナウイルス感染防止対策に係る事項

1 主催者が行う感染症予防対策への同意について
競技者及び大会関係者は、以下の⑴～⑸に同意のうえ、大会に参加すること。
(1) 主催者からの健康状態の確認（体調管理チェックシート等の提出、検温等）に応じる。（大会開催２週間前、大会当日、大会終了後２週間）
(2) 大会２週間前から大会当日までに、感染疑い症状の発症、新型コロナウイルス検査で陽性反応、感染者との濃厚接触があった場合、主催者に報告し、参加を辞退する。
(3) 大会当日に、発熱（37.5度以上）などの感染疑い症状がある場合、主催者は参加を認めない。
(4) マスクを持参し、レース中以外はマスクを着用し、各自が持ち帰り廃棄をする。（フェイスマスク（バフなど）の代用品を認める。）
(5) その他、主催者が定める「新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン」に従う。

2 競技者がスタートからレースに持ち込んだ飲料、または給水所にて受け取った水等を、他の競技者と共有し、回し飲みすることを禁止とする。

3 競技者が脱ぎ捨てた衣類、ボトル等は大会主催者にて廃棄をする。

以　上

（別紙）国際クラス分け表

T51

このクラスの選手は通常、肘関節屈曲、手関節背屈の筋力がグレード５あり、肩関節の筋は筋力低下がみられ、特に大胸筋や上腕三頭筋の筋力はグレード０～３である。通常、体幹の筋力は機能しない。

肘関節の屈筋と、手関節の背屈筋を用いて駆動する。膝の上に顎を置いて、体幹を真っすぐにして座っている。脊髄損傷の神経残存レベルＣ５－６レベルと同等の活動制限がある。

T33/52

T33

四肢麻痺、三肢麻痺、重度の片麻痺-中等度（非対称性または対称性）の四肢麻痺、またはより機能の良い側の障害上肢にほぼ完全な筋力があり車いすを使用する重度の片麻痺。選手がより機能の良い側の障害上肢にほぼ完全な機能を持つ片麻痺か三肢麻痺の状態を呈しない限り、このクラスにアテトーゼの選手が含まれることは稀である。自立して車いすを推進することができる。

上肢－少なくとも障害のある上肢は伸展とフォロースルーの制限がある痙性グレード２の中等度の制限。障害のある手が円筒状と球状の握りを示すことがある。

体幹－車いすを力強くプッシュする時、前方への体幹の動きは、伸展痙性によってしばしば制限される。痙性グレードは２。

下肢－痙縮グレード３～４。いくつかの明らかな機能が、トランスファー時に観察することができる。介助または歩行支援用具を使って歩行ができるかもしれないが、短距離のみである。

T33と T34の違いは、車いす駆動時の体幹の動きと、手の機能が重要である。もしも、駆動動作時に、すばやい体幹運動を使うこと、または上肢運動の明らかな非対称性、もしくは握りとリリースに非常に貧しい能力を示した場合は、クラス T33である。

片上肢で車いすを駆動する場合、ロングストロークや素早い握り、リリースを行っていても、T33である。

T52

このクラスの選手は通常、肩・肘・手関節の筋力は正常である。手指屈伸筋力は手内筋の萎縮を伴って正常ではない。駆動には肩・肘・手関節を用いている。通常、体幹筋力は機能しない。T53、T54のクラスと同じようなグローブテクニックを用いる場合もある。脊髄損傷の神経残存レベルＣ７－８と同等の活動制限がある。

T34/53/54

T34

両麻痺－中等度から重度。上肢と体幹の障害（制限と問題）は最小限で機能は良好。

上肢－上肢は、多くの場合、正常の機能を示す。関節可動域の最小限の制限があるが、ほぼ正常なフォロースルーが可能で、投げたり、駆動もほぼ正常である。手の機能は正常で、すべてのスポーツで見られるように、つかみやすい握りが可能である。制限があるとすれば、早く細かい運動で見られる。両麻痺は上肢よりも下肢の方がより痙性が強い。痙性グレード１～２。手、上肢、体幹を機能的に動かすことが可能である。

体幹－痙縮グレード１～２。車いす駆動時の体幹の動きは最小限の制限。いくつかの選手は疲労で痙性が増強することもあるが、適切なポジショニングで克服することができる。立位時、バランスは補助器具を使用しても不良（poor）である。

下肢－中等度から重度。両下肢とも痙性グレードは３～４。通常、補助具を使用せずに長距離歩行はできない。車いすの駆動では長く、力強い駆動、素早い把持とリリースが可能である。しかし、手の細かい動きが影響を受けるかもしれない。駆動時に、これらの細かな動きは必須ではない。体幹の前方および後方の強い動きは、上肢のストロークをサポートしている。これらの体幹運動が起こらない場合には、体幹はバランスが取れており、上肢の動きのための安定性を提供している。車いすは曲線を走行する時、体幹はバランスを崩すことはない。

T53

このクラスの選手は、正常な上肢機能を持ち、腹筋と下部の背筋は機能しない。腹筋の機能を補うために、体幹を水平に近づけるといった様々なテクニックを用いる。一般的に加速の時には、体幹を下方に保持しておくための腹筋の機能がないため体幹は膝から離れて起きる；駆動中、下方への自動的な体幹の運動はみられない。大抵の場合、代償機能を調整するために駆動サイクルは制限される。脊髄損傷の神経残存レベルＴ１－７と同等の活動制限がある。

T54

このクラスの選手は、正常な上肢筋力を持ち、体幹をコントロールする能力は部分的なものから正常までの幅を持っている。このグループの選手の中には有効な下肢の筋力を持っている選手もいることがある。リムに駆動の力が加えられた時に、体幹を下方に保持するための正常な体幹コントロールができる。大抵の場合、駆動時のサイクルはスムーズである。

車いす上で身体を起き上がり、回旋する筋力を加えることによって車いすの方向転換をすることができる。脊髄損傷の神経残存レベルＴ８－Ｓ４レベルと同等の活動制限がある。

（※）上記は、日本版クラス分けマニュアルから抜粋したものであり内容が一部異なる場合があります。詳しくは、日本パラ陸上競技連盟ホームページにて最新版をご参照になるか、大会事務局までお問い合わせください。
http://jaafd.org/contents/code/committee3

【第40回記念大会役員】(Executive Committee Members)

大会会長	大分県知事		広瀬勝貞
副会長	大分県副知事		黒田秀郎
副会長	公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会	会長	鳥原光憲
副会長	一般社団法人日本パラ陸上競技連盟	会長	増田明美
副会長	大分市長		佐藤樹一郎
副会長	大分合同新聞社	代表取締役社長	長野景一
副会長	社会福祉法人大分県社会福祉協議会	会長	草野俊介
副会長	大分県障がい者スポーツ協会	会長	草野俊介
顧問	オムロン株式会社	代表取締役社長 CEO	山田義仁
顧問	一般財団法人大分陸上競技協会	会長	小手川強二
顧問	株式会社大分放送	代表取締役社長	猪俣知三
顧問	大分県教育委員会	教育長	岡本天津男
顧問	大分市教育委員会	教育長	佐藤光好
顧問	公益財団法人大分県スポーツ協会	会長	麻生益直
顧問	一般社団法人大分県身体障害者福祉協会	会長	佐藤一夫
顧問	社会福祉法人大分合同福祉事業団	理事長	長野健
顧問	社会福祉法人太陽の家	理事長	山下達夫
顧問	大分県警察本部	本部長	松田哲也
顧問	陸上自衛隊第41普通科連隊	連隊長	中村英昭
参与	大分県土木建築部	部長	島津惠造
参与	大分県警察本部交通部	部長	三浦一也
参与	大分市土木建築部	部長	吉田健二
参与	公益財団法人日本パラスポーツ協会	常務理事	山田登志夫
参与	公益財団法人日本パラスポーツ協会	理事・医学委員長	陶山哲夫
参与	大分合同新聞社	常務取締役	佐藤政昭
参与	別府重度障害者センター	所長	白浜一
委員長	大分県福祉保健部	部長	山田雅文
副委員長	大分市福祉保健部	部長	斉藤修造
副委員長	大分合同新聞社	上席執行役員マーケティング統括局長	青木貴史
副委員長	一般財団法人大分陸上競技協会	専務理事	稲津喜英
委員	大分県教育庁	体育保健課長	加藤寛章
委員	大分県警察本部交通部	交通規制課長	後藤和樹
委員	大分県警察本部交通部	交通機動隊長	髙倉智勝
委員	大分中央警察署	署長	木村浩和
委員	大分東警察署	署長	芹川俊彦
委員	大分市福祉保健部	障害福祉課長	田崎敢
委員	大分市企画部スポーツ振興課	審議監兼スポーツ振興課長	三好正昭
委員	大分合同新聞社	マーケティング統括局イベント事業部長	髙屋康祐
委員	株式会社大分放送	営業局長兼テレビ営業部長	森永尚史
委員	一般財団法人大分陸上競技協会	総務委員長	原俊介
委員	大分県障害者スポーツ指導者協議会	会長	池部純政
委員	別府重度障害者センター	運動療法士長	木畑聡
委員	社会福祉法人太陽の家	健康支援課長	神鳥澄男
委員	大分身体障害者陸上競技協会	会長	佐藤隆信
委員	通訳ボランティア Can–do	代表	後藤恵子
委員	大分中村病院	リハビリテーション科統括部長	黒木洋美

【世界パラ陸上競技連盟】(World Para Athletics)

Technical Delegate（技術代表）宮田　英明（WPA 派遣）

【競技役員】(Race Officials)

（◎は主任）

総務	稲津　喜英			
総務員	原　俊介	上杉　貴志	児玉　和也	古庄　英之
JPA－NTO	山田　昇（JPA 派遣）	吉田　徹（JPA 派遣）	山下　和行（JPA 派遣）	
技術総務	円本　宗秋	石橋　壽利	泥谷　和幸	
国際道路コース計測員	苅込　英昭（JAAF 派遣）			
ジュリー	北林　直哉（JPA 派遣）	岡松　眞明	下城　重喜	榮木　一
	舩越　武典			
審判長	田崎　弘宣（マラソン）	小俣　秀之（ハーフ）		
監察員	◎廣末　敬（ハーフ審判長車）			
	渡邊　仙蔵（監察車①）	小山　建（監察車①）	森﨑　宣和（監察車②）	
	渕　俊伸（監察車③）	草場　真二（監察車④）	阿南　憲治（監察車⑤）	
	金丸　和浩（監察車⑥）	桑原　昇造（監察車⑦）	染矢　睦（監察車⑧）	
決勝審判員	◎堤　紘一（マラソン）	西村　義弘	添田　順子	石井知由美
	石川　康壽	堀田　幸忠		
	◎羽田野明美（ハーフ）	西　親則	松崎　安男	小間　敏子
	野田　浩			
計時員	◎栗林　敏勝（マラソン）	田中　義博	井上　啓司	高橋孝一郎
	大成　忍			
	◎増村　栄彦（ハーフ）	橋本　孝之	財津　廣記	三上　忠明
	清家　直一			
写真判定員	◎志賀　哲哉	中島　益章		
トランスポンダー係	◎渡邊　健太	秦　卓司		
スターター	◎田中　繁	瀧口登志朗		
記録員	◎工藤　啓記	中畑千恵子	鳩野　美沙	
報道係	◎大西　竜一	徳光　久	日髙　千紘	
競技者係兼出発係	◎坂本　智美（マラソン）	山西　敏晴	安東　寿子	梶原　清美
	大成　千草	下田　法子		
	◎三宅美智子（ハーフ）	園田　明美	財津美紀夫	仲摩　勝春
	阿部　光佳			
外国人競技者係	◎丸尾　直彦	長野由美子	衛藤　昭	
気象計測員	◎羽田野二郎	甲斐　浩嗣		
役員係	◎安部　明美	藤井　宗隆	内田　貞美	川野　智暖
	首藤　麻希	大重　幹男		
マーシャル	河野　勝彦	柴北　育昌	佐藤　慎司	北川　裕基
用器具係	◎柴山　広	大戸　功雄	森本　秀治	中村　健治
収容車係	◎江藤　輝幸	日名子義生	瀬戸口良典	久冨　大嗣
医務係	◎坂本真由美	吉川　弥生	梶原　進一	
庶務係	川上　愛佳	坂本　純子	中西　千夏	
放送係	◎三代　寿子	末延　栞		
ドーピングコントロールオフィサー	◎吉澤　俊治	横山　恭子	佐藤　洋子	河野　昇治
	梶原奈津美	増本　賢治	林田　啓誉	
シャペロン	◎伊東　清信	首藤　昭光		
医療統括責任者	黒木　洋美（社会医療法人恵愛会　大分中村病院　リハビリテーション科統括部長）			
クラス分け委員（JPA 派遣）	池部　純政	高原由美子	植原　史恭	大川　裕行
	前田　雄一			

関門役員

マラソン第一関門	◎小俣賢二郎	上久保　晃		
ハーフ第一関門	◎後藤　和久	渡邉　和也		
マラソン5km	◎川下喜代人	平山　勝治	鳴海きくみ	柴田　順子
ハーフ5km	◎宅野　成喜	濱崎義日出	新宮　眞二	二見　拓希
第一・第三折返し点	◎柴田　和己	藤田　義昭	大戸　貴博	
マラソン10km	◎山本　豊	坂巻　諄	井上　達夫	髙瀬　哲生
ハーフ10km	◎諸田　義信	川野　恵子	後藤　憲行	後藤　信徳
ハーフ第二折返し点	◎佐藤　吉明	竹内　邦弘	白石　尚輝	
マラソン15km	◎甲斐　強	判田　剛	菅田　俊介	
ハーフ15km	◎村西　栄二	飛田　祥子	後藤　信介	高瀬　政寛
マラソン20km	◎吉川　正文	須磨　長憙	由迫　英恭	
ハーフ20km	◎杉本　和之	佐藤　晃	中島　英利	工藤　武子
マラソン中間点	◎鳥倉　秀聖	戸曽　正博		
マラソン25km	◎明石　敦郎	長峰　徳幸	後藤　大輔	浅野佳代子
マラソン第二・第四折返し点	◎小野　千里	河津　智顕		
マラソン30km	◎足立　達哉	近藤めぐみ	神崎　真一	立川三枝子
マラソン35km	◎板井　新一	東本　孝	松浦　利美	奥下　美保
マラソン40km	◎櫻井　貢	上久保陽子	工藤　早苗	川村　英子

給水係

◎宮脇　清夫

7km・26km	◎横濱　正	梶原　五男	矢幡　俊典	竹島　大喜
13km・31km	◎溝口　誠志	小野　浩之	川野奈緒美	
18km・36km	◎武石　弘志	武内　三朗	山本　利光	

走路審判員

◎大庭　恵一

スタート地点付近	高司浩一郎	姫野　辰也	古木　春名
	熊谷　明	石丸　玲子	
城崎交差点	佐藤　敏郎	後藤　博文	
農業会館南交差点	中島　祥子		
舞鶴橋西交差点～舞鶴橋	飯干　順一	中村　政子	
舞鶴橋東交差点～中津留一丁目交差点	酒井　宏	髙野　留美	
花津留一丁目交差点	川野　真里	桃田　結香	
乗越交差点	佐藤　重康	吉原誠一郎	
平和市民公園先交差点	隅田　智之	原田　枝美	
西中浜交差点	副田　博文	佐藤　陽子	
運輸支局前交差点	松浦　良一	赤崎　惣	
競技場入口交差点	川上　末喜	仲摩　昇	宮川喜久生
	瀧石　裕一	後藤こずえ	黄　愛
競技場第4ゲート	高司　龍二	岩尾　雅弘	阿南　和美
中島十条交差点	渡辺　利彦	畑野　新司	
新川交差点	岳尾　元勝	山田　義高	
浜町交差点	倉野　浩成	伊藤　照幸	
春日浦交差点	楢木野愛理	髙瀬　亮太	
王子町交差点	姫野　昭彦	黄　壮大	新貝　隆
新日鉄前交差点	小野　長次	仲築間　寛	
三海橋（ハーフ折返し）	後藤　修一	有薗　康博	
三海橋東交差点	板井　朗	光延　慎一	
家島橋手前（マラソン折返し）	安心院久嗣	首藤　晴美	久保　裕治

協力

公益財団法人日本パラスポーツ協会公認　障がい者スポーツ指導員

第40回記念大分国際車いすマラソンスケジュール

時　刻	11月20日（土）	11月21日（日）
8:00		00 **ウォームアップ**
9:00	00 **選手受付** ※クラス分け不要（大分県庁舎本館） 45 **選手受付・クラス分け** ※クラス分け要（大分市営陸上競技場）	25　選手整列開始 40　交通規制開始 57　スタート地点整列完了 30 **パブリックビューイング・OITA応援ステージ**（大分市祝祭の広場）
10:00		00 **マラソンスタート** 03 **ハーフマラソンスタート** 45　ハーフ　トップフィニッシュ見込
11:00		20　マラソン　トップフィニッシュ見込
12:00	00	10　ハーフ　フィニッシュ地点閉鎖
13:00		00　マラソン　フィニッシュ地点閉鎖
14:00		20 **閉会式（表彰式）**（大分市営陸上競技場） 20
15:00	00	00
16:00	00 **開会式**（大分市祝祭の広場） 45	
17:00	00 **有力選手記者会見**（大分市祝祭の広場） 30	
18:00		
19:00		
20:00		

開会式次第

令和３年11月20日（土）お部屋ラボ祝祭の広場

時　刻	式　次　第	備　　考
15：40	オープニングアトラクション	大分商業高校吹奏楽部
15：55	協賛企業紹介	
16：00	開式通告	ファンファーレ（大分商業高校吹奏楽部）
16：01	大会会長あいさつ	大会会長　大分県知事　広瀬勝貞
16：04	地元市長あいさつ	大会副会長　大分市長　佐藤　樹一郎
16：08	来賓あいさつ	
16：13	主催者・来賓紹介	
16：16	選手宣誓	
16：25	感謝状・表彰状授与	
16：45	閉式通告	

※17：00～17：30に同会場で有力選手記者会見を実施
※開会式・記者会見は新型コロナウイルス対策のため、入場制限（300名上限）を設けます

スタート次第

令和３年11月21日（日）大分県庁前

時　刻	式　次　第		時　刻	式　次　第	
8：00	1	ウォームアップ開始	9：50	6	スタート地点選手誘導開始
9：25	2	ウォームアップ終了	9：57	7	選手ラインアップ完了
9：25	3	選手整列開始	10：00	8	マラソンスタート
9：35	4	スタート地点交通規制開始	10：03	9	ハーフマラソンスタート
9：45	5	選手整列完了			

閉会式次第

令和３年11月21日（日）大分市営陸上競技場

時　刻	式　次　第	備　　考
13：20	開式通告	ファンファーレ
13：21	成績発表（ハーフマラソンの部）	ハーフマラソン審判長
13：26	表彰（ハーフマラソン）	表彰者
	男子Ｔ51（１位のみ）	大会役員・来賓
	女子Ｔ33/52（１～２位のみ）	
	男子Ｔ33/52（１～３位）	
	女子Ｔ34/53/54（１～３位）	
	男子Ｔ34/53/54（１～３位）	
13：37	成績発表（マラソンの部）	マラソン審判長
13：42	表彰（マラソン）	表彰者
	男子Ｔ51（１位のみ）	大会役員・来賓
	男子Ｔ33/52（１～３位）	
	女子Ｔ34/53/54（１～３位）	
	男子Ｔ34/53/54（１～３位）	
14：00	大会会長あいさつ	大会会長　大分県知事　広瀬勝貞
14：05	秋篠宮皇嗣殿下　お言葉（オンライン）	
14：10	国旗、県旗、大会旗　降納	
14：12	閉会宣言	ファンファーレ
14：13	閉式通告	

パブリックビューイング・Yell for ALL ライブ（OITA 応援ステージ）次第

令和３年11月21日（日）お部屋ラボ祝祭の広場

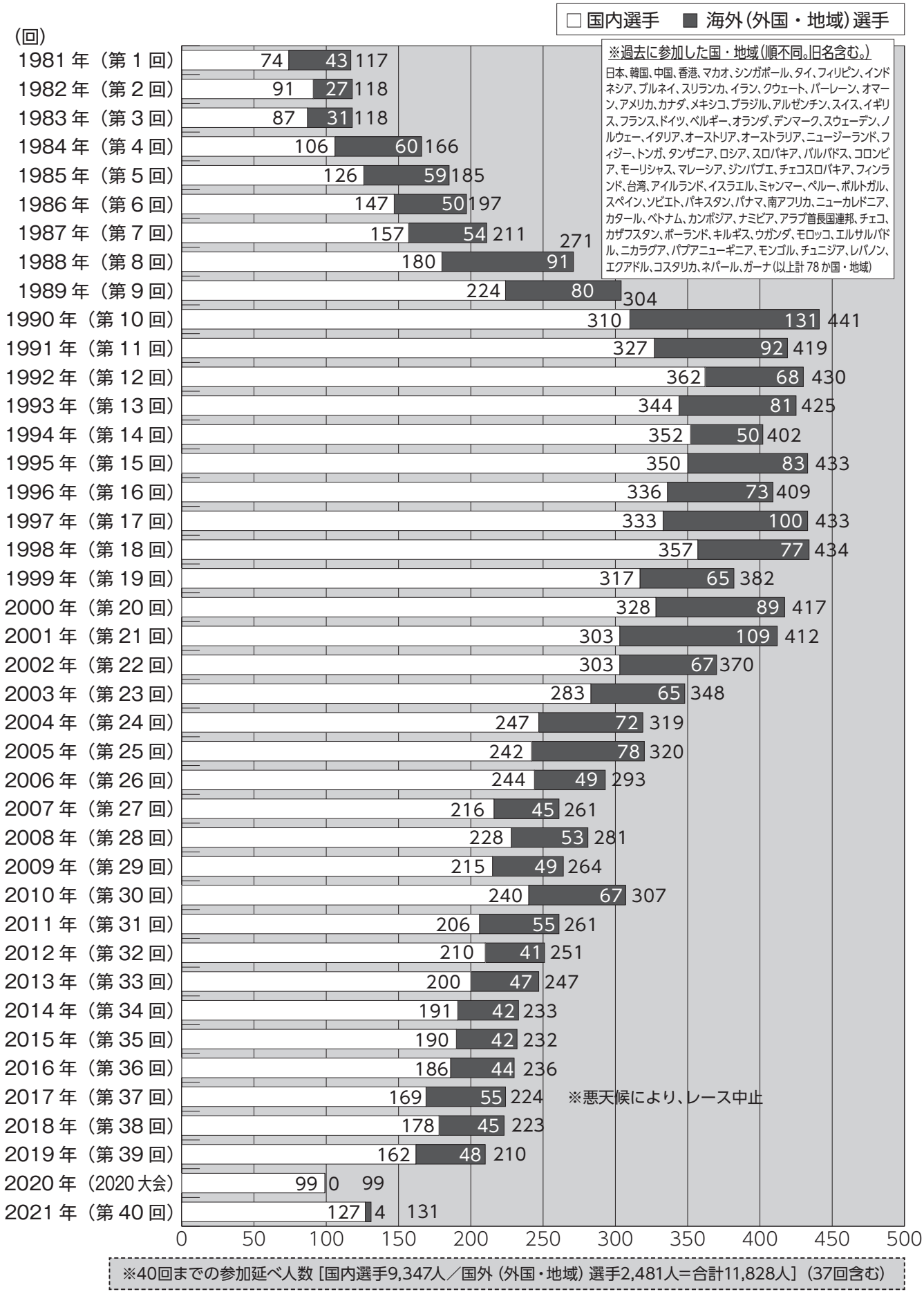
時　刻	式　次　第	時　刻	式　次　第
【第１部】パブリックビューイング		【第２部】Yell for ALL ライブ（OITA 応援ステージ）	
9：30	レース映像の観戦　開始	12：00	①庄内子供神楽
11：30	終了	12：45	②ダンススタジオスマイルス
		13：00	③匹田大智津軽三味線
		13：30	④仮面女子
		14：20	⑤アルケミスト
		15：00	終了

※新型コロナウイルス対策のため、入場制限（300名上限）を設けます

○入賞選手の企業賞について

オムロン株式会社より　“オムロン杯”をマラソン T34/53/54男子の１位選手へ授与
新日本製薬株式会社より　“新日本製薬賞（パーフェクトワン）”をマラソン T34/53/54女子の１位～３位選手へ授与

参加者数の推移



※40回までの参加延べ人数［国内選手9,347人／国外（外国・地域）選手2,481人＝合計11,828人］（37回含む）

年／大会		国内									
		ハーフマラソン			マラソン			合計			参加都道府県数
		男	女	小計	男	女	小計	男	女		
1981年	第１回大会	72	2	74			0	72	2	74	14
1982年	第２回大会	86	5	91			0	86	5	91	19
1983年	第３回大会	42	4	46	40	1	41	82	5	87	22
1984年	第４回大会	60	2	62	41	3	44	101	5	106	26
1985年	第５回大会	79	2	81	44	1	45	123	3	126	27
1986年	第６回大会	91	5	96	49	2	51	140	7	147	25
1987年	第７回大会	84	4	88	66	3	69	150	7	157	29
1988年	第８回大会	101	7	108	71	1	72	172	8	180	26
1989年	第９回大会	117	13	130	92	2	94	209	15	224	36
1990年	第10回記念大会	155	20	175	130	5	135	285	25	310	41
1991年	第11回大会	173	19	192	130	5	135	303	24	327	41
1992年	第12回大会	199	23	222	136	4	140	335	27	362	43
1993年	第13回大会	183	15	198	143	3	146	326	18	344	43
1994年	第14回大会	186	14	200	148	4	152	334	18	352	43
1995年	第15回大会	176	10	186	161	3	164	337	13	350	43
1996年	第16回大会	164	10	174	160	2	162	324	12	336	44
1997年	第17回大会	168	15	183	147	3	150	315	18	333	43
1998年	第18回大会	173	16	189	165	3	168	338	19	357	43
1999年	第19回大会	165	15	180	134	3	137	299	18	317	42
2000年	第20回記念大会	172	16	188	136	4	140	308	20	328	40
2001年	第21回大会	162	15	177	122	4	126	284	19	303	40
2002年	第22回大会	162	15	177	123	3	126	285	18	303	41
2003年	第23回大会	161	12	173	104	6	110	265	18	283	37
2004年	第24回大会	131	11	142	101	4	105	232	15	247	39
2005年	第25回大会	123	14	137	103	2	105	226	16	242	39
2006年	第26回大会	146	13	159	83	2	85	229	15	244	39
2007年	第27回大会	128	12	140	73	3	76	201	15	216	36
2008年	第28回大会	136	14	150	76	2	78	212	16	228	38
2009年	第29回大会	136	11	147	66	2	68	202	13	215	37
2010年	第30回記念大会	144	13	157	81	2	83	225	15	240	37
2011年	第31回大会	128	7	135	68	3	71	196	10	206	37
2012年	第32回大会	134	7	141	64	5	69	198	12	210	37
2013年	第33回大会	131	10	141	55	4	59	186	14	200	37
2014年	第34回大会	128	11	139	49	3	52	177	14	191	32
2015年	第35回大会	133	12	145	43	2	45	176	14	190	32
2016年	第36回大会	141	11	152	33	1	34	174	12	186	31
2017年	第37回大会※	127	7	134	33	2	35	160	9	169	31
2018年	第38回大会	130	10	140	37	1	38	167	11	178	29
2019年	第39回大会	111	11	122	37	3	40	148	14	162	29
2020年	2020大会	73	4	77	20	2	22	93	6	99	23
2021年	第40回記念大会	94	9	103	23	1	24	117	10	127	26
大会合計		5, 405	446	5, 851	3, 387	109	3, 496	8, 792	555	9, 347	

※第37回大会は悪天候により、レース中止

年／大会		海外									
		ハーフマラソン			マラソン			合計			海外参加国数
		男	女	小計	男	女	小計	男	女		
1981年	第１回大会	38	5	43			0	38	5	43	13
1982年	第２回大会	24	3	27			0	24	3	27	12
1983年	第３回大会	14	1	15	14	2	16	28	3	31	13
1984年	第４回大会	25	3	28	26	6	32	51	9	60	21
1985年	第５回大会	33	5	38	20	1	21	53	6	59	19
1986年	第６回大会	24	3	27	20	3	23	44	6	50	18
1987年	第７回大会	22	3	25	25	4	29	47	7	54	19
1988年	第８回大会	44	14	58	31	2	33	75	16	91	30
1989年	第９回大会	30	14	44	34	2	36	64	16	80	24
1990年	第10回記念大会	43	17	60	65	6	71	108	23	131	36
1991年	第11回大会	43	8	51	38	3	41	81	11	92	32
1992年	第12回大会	33	7	40	26	2	28	59	9	68	29
1993年	第13回大会	43	3	46	32	3	35	75	6	81	31
1994年	第14回大会	26	5	31	17	2	19	43	7	50	26
1995年	第15回大会	39	10	49	31	3	34	70	13	83	41
1996年	第16回大会	33	8	41	30	2	32	63	10	73	32
1997年	第17回大会	40	8	48	46	6	52	86	14	100	27
1998年	第18回大会	31	9	40	32	5	37	63	14	77	26
1999年	第19回大会	31	3	34	30	1	31	61	4	65	25
2000年	第20回記念大会	47	7	54	28	7	35	75	14	89	29
2001年	第21回大会	49	6	55	46	8	54	95	14	109	27
2002年	第22回大会	26	5	31	33	3	36	59	8	67	26
2003年	第23回大会	21	3	24	36	5	41	57	8	65	19
2004年	第24回大会	24	8	32	36	4	40	60	12	72	17
2005年	第25回大会	26	9	35	40	3	43	66	12	78	19
2006年	第26回大会	16	5	21	24	4	28	40	9	49	15
2007年	第27回大会	14	2	16	25	4	29	39	6	45	14
2008年	第28回大会	15	1	16	30	7	37	45	8	53	14
2009年	第29回大会	16	2	18	28	3	31	44	5	49	15
2010年	第30回記念大会	22	3	25	38	4	42	60	7	67	19
2011年	第31回大会	16	2	18	32	5	37	48	7	55	15
2012年	第32回大会	12	2	14	24	3	27	36	5	41	13
2013年	第33回大会	12	3	15	27	5	32	39	8	47	15
2014年	第34回大会	8	5	13	25	4	29	33	9	42	13
2015年	第35回大会	8	2	10	27	5	32	35	7	42	14
2016年	第36回大会	19	2	21	19	4	23	38	6	44	14
2017年	第37回大会※	14	7	21	25	9	34	39	16	55	15
2018年	第38回大会	13	2	15	23	7	30	36	9	45	15
2019年	第39回大会	7	1	8	34	6	40	41	7	48	18
2020年	2020大会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
2021年	第40回記念大会	1	0	1	2	1	3	3	1	4	3
大会合計		1,012	206	1,208	1,119	154	1,273	2,121	360	2,481	

※第37回大会は悪天候により、レース中止

年／大会		合計									参加国数	協賛スポンサー
		ハーフマラソン			マラソン			合計				
		男	女	小計	男	女	小計	男	女			
1981年	第１回大会	110	7	117	0	0	0	110	7	117	14	3(3)
1982年	第２回大会	110	8	118	0	0	0	110	8	118	13	1(0)
1983年	第３回大会	56	5	61	54	3	57	110	8	118	14	1(0)
1984年	第４回大会	85	5	90	67	9	76	152	14	166	22	4(3)
1985年	第５回大会	112	7	119	64	2	66	176	9	185	20	4(1)
1986年	第６回大会	115	8	123	69	5	74	184	13	197	19	2(0)
1987年	第７回大会	106	7	113	91	7	98	197	14	211	20	3(0)
1988年	第８回大会	145	21	166	102	3	105	247	24	271	31	9(5)
1989年	第９回大会	147	27	174	126	4	130	273	31	304	25	6(0)
1990年	第10回記念大会	198	37	235	195	11	206	393	48	441	37	13(7)
1991年	第11回大会	216	27	243	168	8	176	384	35	419	33	17(4)
1992年	第12回大会	232	30	262	162	6	168	394	36	430	30	17(0)
1993年	第13回大会	226	18	244	175	6	181	401	24	425	32	18(2)
1994年	第14回大会	212	19	231	165	6	171	377	25	402	27	18(1)
1995年	第15回大会	215	20	235	192	6	198	407	26	433	42	20(2)
1996年	第16回大会	197	18	215	190	4	194	387	22	409	33	22(2)
1997年	第17回大会	208	23	231	193	9	202	401	32	433	28	22(2)
1998年	第18回大会	204	25	229	197	8	205	401	33	434	27	21(0)
1999年	第19回大会	196	18	214	164	4	168	360	22	382	26	22(1)
2000年	第20回記念大会	219	23	242	164	11	175	383	34	417	30	24(1)
2001年	第21回大会	211	21	232	168	12	180	379	33	412	28	24(1)
2002年	第22回大会	188	20	208	156	6	162	344	26	370	27	22(0)
2003年	第23回大会	182	15	197	140	11	151	322	26	348	20	19(0)
2004年	第24回大会	155	19	174	137	8	145	292	27	319	18	16(0)
2005年	第25回大会	149	23	172	143	5	148	292	28	320	20	16(2)
2006年	第26回大会	162	18	180	107	6	113	269	24	293	16	17(3)
2007年	第27回大会	142	14	156	98	7	105	240	21	261	15	17(1)
2008年	第28回大会	151	15	166	106	9	115	257	24	281	15	18(1)
2009年	第29回大会	152	13	165	94	5	99	246	18	264	16	14(0)
2010年	第30回記念大会	166	16	182	119	6	125	285	22	307	20	18(4)
2011年	第31回大会	144	9	153	100	8	108	244	17	261	16	17(0)
2012年	第32回大会	146	9	155	88	8	96	234	17	251	14	17(1)
2013年	第33回大会	143	13	156	82	9	91	225	22	247	16	17(0)
2014年	第34回大会	136	16	152	74	7	81	210	23	233	14	19(2)
2015年	第35回大会	141	14	155	70	7	77	211	21	232	15	22(3)
2016年	第36回大会	160	13	173	52	5	57	212	18	230	15	26(5)
2017年	第37回大会※	141	14	155	58	11	69	199	25	224	16	26(2)
2018年	第38回大会	143	12	155	60	8	68	203	20	223	16	33(10)
2019年	第39回大会	118	12	130	71	9	80	189	21	210	19	36(7)
2020年	2020大会	73	4	77	20	2	22	93	6	99	1	31(1)
2021年	第40回記念大会	95	9	104	25	2	27	120	11	131	4	40(7)
大会合計		6,407	652	7,059	4,506	263	4,769	10,913	915	11,828		※(うち新規)

※第37回大会は悪天候により、レース中止

歴代優勝者とその記録

★世界記録　＊大会記録

	マラソン				ハーフマラソン			
	男	子	女	子	男	子	女	子
	総合優勝	国内1位	総合優勝	国内1位	総合優勝	国内1位	総合優勝	国内1位
第1回	— — —	— — —	— — —	— — —	ゲオルグ・フロイント オーストリア 1°01′46″	宇田津　幸男 大阪府 1°12′42″	マーシャ・ビバード アメリカ 1°21′43″	中村　広美 鹿児島県 1°45′20″
第2回	— — —	— — —	— — —	— — —	リック・ハンセン カナダ 58′30″	松井　順一 長野県 1°08′05″	モニカ・ベテルストロム スウェーデン 1°13′26″	坂元　りつ子 大阪府 1°35′56″
第3回	グレコール・ゴロンベック 西ドイツ 2°07′54″	山本　行文 大分県 2°22′20″	キャンディス・ケーブル アメリカ 2°35′48″	— — —	ポール・ファン・ウィンケル ベルギー 1°05′24″	永尾　嘉章 兵庫県 1°17′57″	幸塚　直子 石川県 1°27′53″	— — —
第4回	アンドレ・ヴィジェ カナダ 1°48′25″	山本　行文 大分県 2°00′47″	キャンディス・ケーブル アメリカ 2°21′09″	幸塚　直子 石川県 2°38′14″	メシャリ・アル・オタイビ クウェート 58′33″	永尾　嘉章 兵庫県 1°06′33″	ピン・チョー 香港 1°21′28″	岩田　いつ子 愛知県 1°27′24″
第5回	アンドレ・ヴィジェ カナダ 1°49′46″	山本　行文 大分県 2°00′48″	ガブリエル・シルト スイス 2°46′42″	— — —	ウリエル・デ・マルチネス・メンデス メキシコ 59′39″	宮居　昌彦 和歌山県 1°07′36″	シャロン・フレネット アメリカ 1°14′58″	多智　利枝 東京都 1°24′35″
第6回	アンドレ・ヴィジェ カナダ 1°45′36″	山本　行文 熊本県 1°50′05″	アンジェラ・イエリティ カナダ 1°58′51″	多智　利枝 東京都 3°02′16″	林　誠二 大阪府 1°00′47″	— — —	カレン・ウィルソン イギリス 1°20′38″	岩田　いつ子 愛知県 1°22′51″
第7回	アンドレ・ヴィジェ カナダ 1°44′18″	山本　行文 熊本県 1°53′36″	アンジェラ・イエリティ カナダ 2°04′31″	岩田　いつ子 愛知県 2°42′22″	サウル・メンドーサ メキシコ 56′20″	伊藤　平太 佐賀県 1°02′16″	坂内　留美 東京都 1°19′09″	— — —
第8回	ポール・クラーク カナダ 1°38′27″	山本　行文 熊本県 1°42′42″	コニー・ハンセン デンマーク 2°05′28″	— — —	マヌエル・カサス メキシコ 55′22″	竹村　克明 埼玉県 1°04′06″	イングリッド・ラオリッツエン デンマーク 1°09′20″	坂内　留美 東京都 1°15′40″
第9回	ムスタファ・バディ フランス 1°40′45″	山本　行文 熊本県 1°43′21″	ジャネット・ジャンセン オランダ 1°48′45″	坂内　留美 東京都 2°49′09″	ラジャ・シン シンガポール 52′58″	山田　和宏 岡山県 1°01′58″	イングリッド・ラオリッツエン デンマーク 58′57″	畑中　和 兵庫県 1°06′45″
第10回	ハインツ・フライ スイス 1°39′35″	山口　悟志 大阪府 1°47′07″	ジャネット・ジャンセン オランダ 1°47′09″	長谷川　尚美 兵庫県 1°51′31″	ロベルト・フィグル ドイツ 48′26″	須田　伸太郎 山形県 57′06″	ディアンナ・ソドマ アメリカ 1°00′03″	伊藤　由美 東京都 1°07′10″
第11回	ハインツ・フライ スイス 1°35′46″	川島　誉 和歌山県 1°45′44″	コニー・ハンセン デンマーク 1°47′45″	畑中　和 兵庫県 2°02′10″	サウル・メンドーサ メキシコ 49′42″	中田　達也 京都府 55′19″	イングリッド・ラオリッツエン デンマーク 1°01′54″	伊藤　由美 東京都 1°07′49″
第12回	クーリッジ・スチャポート 南アフリカ 1°35′47″	山本　行文 熊本県 1°43′29″	リリー・アングレニー ドイツ 1°48′35″	畑中　和 兵庫県 1°54′28″	ジェイコブ・ヘイルヴェイル アメリカ 53′47″	山見　誠治 福岡県 53′47″	モニカ・ベテルストロム スウェーデン 57′06″	藤原　志保 静岡県 1°06′24″
第13回	ハインツ・フライ スイス 1°34′35″	中村　博之 大阪府 1°39′56″	モニカ・ベテルストロム スウェーデン 1°52′06″	畑中　和 兵庫県 1°56′34″	ホルヘ・ルヤ・ゼペダ メキシコ 47′04″	野沢　英二 青森県 50′32″	南野　教子 福岡県 1°08′02″	— — —
第14回	ハインツ・フライ スイス 1°30′54″	室塚　一也 北海道 1°39′09″	シャンタル・プティクレー カナダ 2°01′58″	南野　教子 福岡県 2°27′35″	ジム・C・マーティンソン アメリカ 48′07″	野沢　英二 青森県 53′05″	ドラ・ガルシア・エストラーダ メキシコ 1°05′14″	藤原　志保 静岡県 1°07′52″
第15回	ハインツ・フライ スイス 1°22′38″	室塚　一也 北海道 1°30′54″	畑中　和 兵庫県 1°44′36″	— — —	エリック・ナイツェル アメリカ 46′32″	野沢　英二 青森県 49′59″	コニー・ハンセン デンマーク 55′19″	櫻田　陽子 神奈川県 59′05″
第16回	ハインツ・フライ スイス 1°24′24″	廣道　純 兵庫県 1°31′12″	ルイーズ・サヴァージュ オーストラリア 1°45′03″	畑中　和 兵庫県 1°48″08′	エリック・ナイツェル アメリカ 47′12″	西田　聡 長崎県 47′16″	土田　和歌子 東京都 55′30″	— — —
第17回	ハインツ・フライ スイス 1°24′49″	室塚　一也 北海道 1°31′34″	畑中　和 兵庫県 1°39′40″	— — —	アアロン・ゴルディアン メキシコ 45′57″	野沢　英二 青森県 51′41″	奥山　京子 山形県 54′40″	— — —
第18回	ハインツ・フライ スイス 1°26′55″	室塚　一也 北海道 1°34′51″	モニカ・ベテルストロム スウェーデン 1°51′36″	土田　和歌子 東京都 1°56′34″	エクトル・エルナンデス メキシコ 46′37″	渡辺　幹司 大分県 46′40″	アリアデン・エルナンデス メキシコ 56′16″	高良　依子 沖縄県 1°00′01″
第19回	ハインツ・フライ スイス 1°20′14″	室塚　一也 北海道 1°31′55″	畑中　和 兵庫県 1°44′31″	— — —	藤川　泰博 兵庫県 46′50″	— — —	グニラ・ワレングレン スウェーデン 51′30″	川島　由美 愛知県 57′09″
第20回	ハインツ・フライ スイス 1°22′03″	室塚　一也 北海道 1°30′32″	畑中　和 兵庫県 1°42′53″	— — —	エクトル・エルナンデス メキシコ 46′40″	藤田　英二 山口県 46′41″	土田　和歌子 東京都 ＊49′36″	— — —
第21回	ハインツ・フライ スイス 1°22′20″	廣道　純 大分県 1°29′38″	土田　和歌子 東京都 1°38′32″	— — —	渡辺　習輔 大分県 45′01″	— — —	長澤　麻子 山梨県 1°02′16″	— — —
第22回	ハインツ・フライ スイス 1°25′46″	廣道　純 大分県 1°30′20″	土田　和歌子 東京都 1°44′39″	— — —	ポール・ナナリー オーストラリア 47′04″	寒川　進 京都府 47′05″	ジェニー・ルンドブラッド スウェーデン 58′03″	小峯　直美 愛知県 1°03′30″
第23回	ジョエル・ジャノ フランス 1°25′43″	クルンゲルン・ブランチョーク 大分県 1°29′59″	土田　和歌子 東京都 1°40′01″	— — —	渡辺　習輔 大分県 44′37″	— — —	ジェニー・ルンドブラッド スウェーデン 1°00′59″	小峯　直美 愛知県 1°03′16″

歴代優勝者とその記録

マラソン

★世界記録　＊大会記録

	男子			女子			国内1位
	T51	T52	T53／54	T51	T52	T53／54	
第24回	完走者なし	吉本　茂 長野県 2°04′07″	ｴﾚﾝｽﾄ・ﾌｧﾝ ﾀﾞｲｸ 南アフリカ 1°28′03″	出走者なし	ﾘｻ・ﾏﾘｰ・ﾌﾗﾝｸｽ カナダ 2°10′27″	ダイアン・ロイ カナダ 1°52′25″	笹原　廣喜 大分県 1°28′31″
第25回	ｽﾃﾌｧﾝ・ｽﾄﾛｰﾍﾞﾙ ドイツ 2°39′46″	伊藤　智也 三重県 2°00′02″	ｴﾚﾝｽﾄ・ﾌｧﾝ ﾀﾞｲｸ 南アフリカ 1°26′37″	出走者なし	八巻　智美 福島県 2°19′36″	ダイアン・ロイ カナダ 1°46′07″	笹原　廣喜 大分県 1°26′41″
第26回	ｽﾃﾌｧﾝ・ｽﾄﾛｰﾍﾞﾙ ドイツ 2°36′24″	伊藤　智也 三重県 1°52′36″	笹原　廣喜 大分県 1°24′15″	出走者なし	八巻　智美 福島県 2°17′49″	畑中　和 兵庫県 1°39′28″	笹原　廣喜 大分県 1°24′15″
第27回	ﾊｲﾝﾘｯﾋ・ｸｰﾍﾞｰﾙ ドイツ 2°40′09″	ｻﾝﾃｨｱｺﾞ・ｻﾝﾂ スペイン ＊1°43′46″	ｴﾚﾝｽﾄ・ﾌｧﾝ ﾀﾞｲｸ 南アフリカ 1°23′22″	出走者なし	八巻　智美 福島県 2°09′50″	土田　和歌子 東京都 1°38′55″	山本　浩之 福岡県 1°23′22″
第28回	完走者なし	上与那原　寛和 沖縄県 1°47′17″	ハインツ・フライ スイス 1°26′06″	出走者なし	八巻　智美 福島県 ★2°07′28″	ｱﾏﾝﾀﾞ・ﾏｸｸﾞﾛｰﾘｰ アメリカ 1°43′33″	副島　正純 福岡県 1°27′36″
第29回	完走者なし	ｻﾝﾃｨｱｺﾞ・ｻﾝﾂ スペイン 1°47′37″	ハインツ・フライ スイス 1°25′46″	出走者なし	ﾐｼｪﾙ・ｽﾃｲｳｪﾙ カナダ 2°21′16″	土田　和歌子 東京都 1°39′35″	山本　浩之 福岡県 1°26′12″

	男子			女子			国内1位
	T51	T33／52	T34／53／54	T51	T33／52	T34／53／54	
第30回	ｽﾃﾌｧﾝ・ｽﾄﾛｰﾍﾞﾙ ドイツ 2°32′36″	上与那原　寛和 沖縄県 1°50′22″	マルセル・フグ スイス 1°23′28″	出走者なし	ﾐｼｪﾙ・ｽﾃｲｳｪﾙ カナダ 2°30′52″	ｱﾏﾝﾀﾞ・ﾏｸｸﾞﾛｰﾘｰ アメリカ 1°44′38″	洞ノ上　浩太 福岡県 1°23′30″
第31回	完走者なし	ｻﾝﾃｨｱｺﾞ・ｻﾝﾂ スペイン 1°50′25″	マルセル・フグ スイス 1°24′55″	出走者なし	出走者なし	サンドラ・グラフ スイス 1°45′37″	樋口　政幸 長野県 1°24′55″
第32回	井上　聡 愛媛県 2°59′13″	高田　稔浩 福井県 2°00′05″	マルセル・フグ スイス 1°25′08″	出走者なし	出走者なし	土田　和歌子 東京都 1°43′10″	山本　浩之 福岡県 1°30′09″
第33回	ｽﾃﾌｧﾝ・ｽﾄﾛｰﾍﾞﾙ ドイツ 2°37′15″	ｻﾝﾃｨｱｺﾞ・ｻﾝﾂ スペイン 1°46′09″	マルセル・フグ スイス 1°23′49″	出走者なし	出走者なし	マニュエラ・シャー スイス 1°38′07″	山本　浩之 福岡県 1°28′38″
第34回	完走者なし	ｻﾝﾃｨｱｺﾞ・ｻﾝﾂ スペイン 1°47′29″	マルセル・フグ スイス 1°21′40″	出走者なし	出走者なし	マニュエラ・シャー スイス 1°38′42″	山本　浩之 福岡県 1°28′27″
第35回	ﾋﾟｰﾀｰ・ﾄﾞｳ・ﾌﾟﾚｱ 南アフリカ 2°39′52″	ｻﾝﾃｨｱｺﾞ・ｻﾝﾂ スペイン 1°48′01″	マルセル・フグ スイス 1°24′53″	出走者なし	出走者なし	マニュエラ・シャー スイス 1°40′46″	山本　浩之 福岡県 1°25′15″
第36回	ﾋﾟｰﾀｰ・ﾄﾞｳ・ﾌﾟﾚｱ 南アフリカ 2°30′53″	佐藤　友祈 岡山県 1°49′32″	山本　浩之 福岡県 1°26′02″	出走者なし	出走者なし	喜納　翼 沖縄県 1°44′56″	山本　浩之 福岡県 1°26′02″
第37回	悪天候により、レース中止						
第38回	ﾋﾟｰﾀｰ・ﾄﾞｳ・ﾌﾟﾚｱ 南アフリカ 2°37′06″	佐藤　友祈 岡山県 1°47′57″	マルセル・フグ スイス 1°23′59″	出走者なし	出走者なし	喜納　翼 沖縄県 1°39′36″	鈴木　朋樹 千葉県 1°24′00″
第39回	ﾋﾟｰﾀｰ・ﾄﾞｳ・ﾌﾟﾚｱ 南アフリカ ＊2°27′07″	上与那原　寛和 沖縄県 1°53′04″	マルセル・フグ スイス 1°22′51″	出走者なし	出走者なし	マニュエラ・シャー スイス ★1°35′42″	鈴木　朋樹 東京都 1°22′55″
2020	出走者なし	佐藤　友祈 岡山県 1°49′29″	鈴木　朋樹 東京都 1°22′02″	出走者なし	出走者なし	土田　和歌子 東京都 1°39′42″	鈴木　朋樹 東京都 1°22′02″
第40回	ﾋﾟｰﾀｰ・ﾄﾞｳ・ﾌﾟﾚｱ 南アフリカ 2°34′30″	佐藤　友祈 岡山県 1°50′19″	マルセル・フグ スイス ★1°17′47″	出走者なし	出走者なし	喜納　翼 沖縄県 1°40′13″	鈴木　朋樹 東京都 1°18′37″

歴代優勝者とその記録

ハーフマラソン

★世界記録　＊大会記録

	男子			女子		
	T51	T52	T53／54	T51	T52	T53／54
第24回	濱添　要 大分県 1°49′31″	吉野　真旨 兵庫県 1°07′04″	渡辺　習輔 大分県 46′05″	出走者なし	クリステン・メサー アメリカ 2°07′16″	川島　由美 兵庫県 54′33″
第25回	濱添　要 長崎県 1°34′05″	森島　英樹 兵庫県 1°11′16″	渡辺　習輔 大分県 47′17″	完走者なし	要田　美紀 東京都 1°16′16″	川島　由美 兵庫県 54′56″
第26回	濱添　要 長崎県 1°32′51″	上与那原　寛和 沖縄県 53′59″	吉田　高志 大分県 45′06″	完走者なし	要田　美紀 東京都 1°13′29″	リュー・ウェン・ユン 中国 53′55″
第27回	濱添　要 長崎県 1°32′56″	森島　英樹 兵庫県 1°05′53″	吉田　高志 大分県 45′24″	完走者なし	佐藤　由加 岡山県 1°12′57″	宮本　美紀 岡山県 1°00′55″
第28回	濱添　要 長崎県 1°36′26″	浜上　悟 石川県 1°04′00″	渡辺　習輔 大分県 46′51″	完走者なし	佐藤　由加 岡山県 1°12′37″	髙嵜　瑞喜 東京都 1°02′12″
第29回	濱添　要 長崎県 1°36′29″	松本　直幸 福岡県 1°07′38″	西原　宏明 京都府 45′21″	出走者なし	木山　由加 岡山県 1°11′58″	リュー・ウェン・ユン 中国 55′17″

	男子			女子			新人賞
	T51	T33／52	T34／53／54	T51	T33／52	T34／53／54	
第30回	濱添　要 長崎県 1°31′31″	佐藤　仁志 岡山県 1°10′14″	渡辺　習輔 大分県 45′11″	出走者なし	木山　由加 岡山県 1°12′11″	マニュエラ・シャー スイス 54′33″	
第31回	ケビン・ストークス アメリカ 1°30′46″	デュアン・モロー アメリカ 1°06′31″	リチャード・コールマン オーストラリア 48′10″	出走者なし	木山　由加 岡山県 1°10′16″	マニュエラ・シャー スイス 56′58″	
第32回	長崎　裕也 東京都 1°36′01″	野田　昭和 鳥取県 56′49″	佐矢野　利明 大分県 46′46″	出走者なし	木山　由加 岡山県 1°08′10″	ローズマリー・リトル オーストラリア 57′22″	
第33回	平山　健悟 福岡県 1°44′42″	野田　昭和 鳥取県 55′41″	ピエール・フェアーバンク フランス 45′05″	出走者なし	木山　由加 岡山県 1°10′10″	ローズマリー・リトル オーストラリア 58′44″	渡辺　勝 福岡県 46′10″
第34回	清田　愼也 熊本県 1°37′40″	佐藤　友祈 静岡県 ＊53′10″	松永　仁志 岡山県 46′35″	出走者なし	木山　由加 岡山県 1°09′54″	ローズマリー・リトル オーストラリア 53′11″	河室　隆一 大分県 50′33″
第35回	清田　愼也 熊本県 1°28′53″	野田　昭和 鳥取県 53′41″	渡辺　勝 福岡県 47′32″	出走者なし	木山　由加 岡山県 1°12′54″	中山　和美 神奈川県 53′11″	田中　祥隆 福岡県 52′29″
第36回	エルネスト・フォンセカ コスタリカ 1°25′11″	野田　昭和 鳥取県 56′44″	渡辺　勝 福岡県 43′46″	出走者なし	木山　由加 岡山県 1°11′14″	リュー・ウェンユン 中国 52′05″	武村　浩生 福岡県 50′52″
第37回	悪天候により、レース中止						
第38回	清田　愼也 熊本県 1°24′48″	野田　昭和 鳥取県 53′50″	百武　強士 佐賀県 46′11″	出走者なし	木山　由加 岡山県 1°11′52″	中山　和美 神奈川県 52′59″	生馬　知季 岡山県 46′21″
第39回	井上　聡 愛媛県 1°27′22″	野田　昭和 鳥取県 55′46″	サミュエル・リゾ オーストラリア 46′35″	出走者なし	木山　由加 岡山県 1°17′49″	見﨑　真未 熊本県 1°15′37″	岸澤　宏樹 大阪府 48′31″
2020	出走者なし	伊藤　竜也 福井県 57′48″	久保　恒造 北海道 ＊43′42″	出走者なし	片平　留依 福岡県 1°45′35″	安川　祐里香 沖縄県 57′36″	仲泊　厚志 沖縄県 49′01″
第40回	出走者なし	伊藤　竜也 福井県 56′00″	生馬　知季 岡山県 44′43″	出走者なし	木山　由加 岡山県 1°16′33″	安川　祐里香 沖縄県 58′22″	

【記念行事】

1　大分国際車いすマラソン40回記念展「越境者たち」

日時　令和３年10月27日（水）～11月７日（日）

場所　大分県立美術館１階　アトリウム

内容　大分国際車いすマラソンの生みの親である中村裕博士（社会福祉法人太陽の家創始者）を始め、障がい者スポーツの発展と大分国際車いすマラソンの歩みを、当時の時代背景とともに覧示する写真展を開催。また、同時に「おおいた障がい者芸術文化支援センター企画展 vol. 3『生きるチカラ』」を同会場で開催し、障がい者スポーツと障がい者アートのコラボによる障がい者の社会参加の促進に向けた発信を行った。（のべ来場者数5, 344人）

2　パラスポーツトークショーの開催

日時　令和３年10月30日（土）13時～

場所　大分県立美術館１階　アトリウム

内容　プロ陸上競技選手の中西摩耶選手とアイドルとして活動する猪狩ともか氏、各分野のトップを走る二人を迎えたトークショーを開催。東京2020パラリンピック競技大会や日常生活についてなど幅広い話題についてトークを行った。（観覧者数110人）

3　デジタル技術の活用

内容　デジタル技術を活用したスタンプラリー（「越境者たち」期間中／開会式・PV 会場）を開催し、来場者が非接触型で楽しめる企画を実施。また、QR コードの読み取りによる大会情報（プログラム・交通規制情報等）のデジタル配信を実施し、気軽に必要な情報を入手できるよう環境づくりを行った。

4　「CYBER WHEEL X」（VR 車いすレーサー）の展示

日時　令和３年10月27日（水）～11月７日（日）／大分県立美術館（「越境者たち」同時展示）
場所　　11月８日（月）～11月19日（金）／太陽ミュージアム
　　11月20日（土）～11月21日（日）／祝祭の広場（開会式・PV 会場）
内容　誰でも気軽に車いすマラソンやレースの魅力を体感できる VR（バーチャル・リアリティ）エンターテイメントとして、上記期間中に各会場に展示。多くの県民が体験した。

のべ体験者数　・大分県立美術館／716人
　　・太陽ミュージアム／204人
　　・祝祭の広場／106人　　計1, 026人

5　クラウドファンディングの実施

日時　10月８日（金）～12月10日（金）
内容　海外選手の招待を含めた新型コロナウイルス対策に使用することを目的に、大会史上初めてクラウドファンディングを実施した。実施中は、チラシ配布や SNS 等を活用し周知に努めた。
実績　支援者数79人、支援総額800, 000円

6　記念 Web サイトの創設

内容　40回大会を記念した特設 Web サイトを主催者において制作した。

大分国際車いすマラソン公式サイト「メモリアルページ」
https://kurumaisu-marathon.com/memorial/

大分合同新聞社「第40回記念 大分国際車いすマラソン」（時限公開）
https://www.oita-press.co.jp/kurumaisu/2021

7　応援のぼりの作成・設置

日時　令和３年11月21日（日）レース当日

場所　スタート地点（大分城址公園内・周囲）　290本

　　フィニッシュ地点（大分市営陸上競技場）　60本

内容　新しい応援様式として、障がい児者施設・事業所、幼稚園、ボランティア等に応援メッセージを作成していただき、レース当日、スタート地点及びフィニッシュ地点に設置した。

8　第40回を記念する様々なプロモーションの実施

内容　第40回大会を記念する大会 PR 事業として、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながらも、様々な取組を実施し、コロナ禍において可能な限りの機運醸成を図った。

【具体的な取組】

・第40回記念 PR 動画の作成（大会サイト・SNS での展開）

・大会サイト内にメモリアルページの公開

　（大会の歴史、ロゴ・シンボルマーク・マスコットキャラクター紹介等各種情報掲載）

・大会記念グッズの作成

（クリアファイル）

（タオル）

（トートバッグ）

・ラッピングバスの運行／10月21日（木）～11月20日（土）

9　第40回記念大会に係る記念表彰の実施

日時　令和３年11月20日（土）16時～

場所　お部屋ラボ　祝祭の広場

内容　第40回記念大会の開催に際し、記念表彰を開会式に併せて実施した。受賞者は以下のとおり。

［40回永続功労者表彰（10団体）］

・一般財団法人大分陸上競技協会
・大分県障害者スポーツ指導者協議会
・大分国際車いすマラソン通訳ボランティア Can-do
・大分市交通指導員連合会
・学校法人平松学園　大分東明高等学校
・社会医療法人恵愛会　大分中村病院
・社会福祉法人太陽の家
・日本赤十字社大分県支部
・有限会社大分タキ
・陸上自衛隊別府駐屯地第41普通科連隊

［30回以上功労者表彰（11団体・個人）］

・大分県信用組合
・小川清美
・オムロン株式会社
・学校法人後藤学園　楊志館高等学校
・株式会社大分銀行
・株式会社デンソー
・株式会社トキハ
・株式会社豊和銀行
・ソニーグループ株式会社
・本田技研工業株式会社
・三菱商事株式会社

［40回連続出場選手］

・吉川　勇（大分県）
・原田　耕一（大分県）

［30回以上出場選手］

・工藤　金次郎（徳島県・39回）
・冨川　文男（山口県・35回）
・宮田　実（福岡県・35回）
・城　隆志（大分県・33回）
・山口　悟志（愛媛県・33回）
・川久保　一馬（佐賀県・33回）
・小川　敬（宮崎県・32回）
・藤原　修（大分県・31回）
・外山　哲功（宮崎県・30回）
・小出　公典（大分県・30回）

10　第26回ふるさとイベント大賞　「内閣総理大臣賞」（大賞）の受賞

内容　地域に活力を生み出すイベントを表彰する「ふるさとイベント大賞」（一般財団法人地域活性化センター主催）で、大分国際車いすマラソンが大賞にあたる「内閣総理大臣賞」を受賞した（第26回・全国各地から74件の応募）。

協力者名簿

大分県警本部
大分中央警察署
陸上自衛隊別府駐屯地第41普通科連隊
日本赤十字社大分県支部
大分市医師会立アルメイダ病院
大分大学医学部付属病院
大分県障害者スポーツ指導者協議会
株式会社レンブラントホテル大分

大分県共同募金会
大分県信用組合
株式会社トキハ
千代田商事株式会社
大分航空ターミナル株式会社
ポッカサッポロフード＆ビバレッジ株式会社
株式会社中津レンタリース
芝田　豊通・エミ

大分国際車いすマラソン通訳ボランティア Can-do
本田技研労働組合
株式会社富士通エフサス
株式会社九電工
大分キヤノン株式会社
ジブラルタ生命保険株式会社
全日本空輸株式会社
医療法人社団唱和会明野中央病院
第一生命保険株式会社
株式会社コンカー
社会福祉法人わかば会　清流の郷
大分みらい信用金庫
大分航空ターミナル株式会社
連合大分地域協議会
大分リハビリテーション専門学校
楊志館高等学校
社会福祉法人太陽の家

別府医療センター
スポーツボランティアの皆さま

大分市営陸上競技場
国土交通省九州地方整備局大分河川国道事務所
大分地方法務局
平和市民公園（大分市公園緑地課）
大分県立大分舞鶴高等学校
大分市立舞鶴小学校
大分県職員駐車場運営委員会
大和リース株式会社
株式会社きんでん

大分県警本部交通部交通機動隊
大分東警察署
大分市交通指導員連合会
社会医療法人恵愛会大分中村病院
一般社団法人大分県医師会
国立別府重度障害者センター
株式会社大分センチュリーホテル
大分土木事務所

大分みらい信用金庫
日本製鉄株式会社九州製鉄所
株式会社豊和銀行
九州労働金庫
株式会社佐伯コミュニケーションズ
住友生命保険相互会社
近藤　晴彦
近藤　雄介

オムロン太陽株式会社
三菱商事株式会社
九州電力株式会社
九州電力送配電株式会社
大分キヤノンマテリアル株式会社
清水建設株式会社
全国共済農業協同組合連合会
東京海上日動火災保険株式会社
鬼塚電気工事株式会社
西日本電信電話株式会社
株式会社ブンゴヤ薬局
株式会社ドコモ CS 九州
有限会社アズメディック
大分県ボランティア・市民活動センター
大分東明高等学校
学校法人大原学園
新別府病院

国立病院機構大分医療センター

国土交通省九州運輸局大分運輸支局
大分地方検察庁
別府市下水道課
大分県身体障害者福祉センター
大分県立大分商業高等学校
大分市営温水プール
王子マテリア株式会社
昭和電工株式会社
ダイワ運輸株式会社

明星国際ビューティーカレッジ
ディスカウントドラッグコスモス王子港町店
セブンイレブン大分中島中央店
ローソン大分王子町店
大分県立新生支援学校
大分県のぞみ園
社会福祉法人法治会

株式会社エーワン
セブンイレブン大分日岡3丁目店
ローソン大津町1丁目店
二豊学園
大分県立臼杵支援学校
社会福祉法人新友会
社会福祉法人アップルミント

一般社団法人大分県バス協会
社団法人大分県個人タクシー協会
大分市タクシー協会
大分交通株式会社
株式会社別府急配

一般社団法人大分県タクシー協会
公益社団法人大分県トラック協会
大分バス株式会社
株式会社シティタクシーホールディングス

有限会社大分タキ
株式会社ミキ

日進医療器株式会社
株式会社オーエックスエンジニアリング

大分市中央町商店街
三菱商事太陽株式会社

NPO 法人キッズスポッチャ
小川　清美

その他、沿道住民・沿線企業・学校・施設ほか大会前後や当日にご協力いただいたボランティア等（以上順不同、敬称略）
皆さまのおかげをもちまして第40回記念大分国際車いすマラソンを開催することができました。
厚くお礼を申し上げます。

第40回記念　大分国際車いすマラソン　記念誌

企画編集　大分国際車いすマラソン事務局
（大分県福祉保健部障害者社会参加推進室）
www.kurumaisu-marathon.com
TEL　097-533-6006
FAX 097-506-1736

印 刷 所　株式会社 佐伯コミュニケーションズ
TEL　097-543-1211

40周年の歴史と感動を未来へ。

大　分　県

公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会

一般社団法人日本パラ陸上競技連盟

大　分　市

大分合同新聞社

社会福祉法人大分県社会福祉協議会

大分県障がい者スポーツ協会

協　賛　各　社

OMRON

SONY　HONDA　三菱商事　DENSO　FUJITSU　新日本製薬

大分銀行　九電工　Canon　SHIPS　Gibraltar ジブラルタ生命　清水建設　公益社団法人 大分県薬剤師会 Oita Pharmaceutical Association

マルミヤストア　ANA　JA共済　別大興産　明野中央病院 AKENO CENTRAL HOSPITAL　TOKIO MARINE NICHIDO 東京海上日動

一生涯のパートナー 第一生命 Dai-ichi Life Group　鬼塚電気工事 ONIZUKA ELECTRIC WORKS　phiten　SAP Concur　笹川スポーツ財団 SASAKAWA SPORTS FOUNDATION　日本郵便

YAHOO! JAPAN　NTT西日本　障害者支援施設 清流の郷　AUTOBACS SEVEN　有限会社ドリームライン　ブンゴヤ ヘルス・ケア

SUZUKI CO.,LTD.　新星工業株式会社　創業慶應二年 太田旗店　日本赤十字社 Japanese Red Cross Society　DAITETSU　株式会社フジタ

あなたに夢を。街に元気を。 クーちゃん 宝くじ